

第4回 ディスカバー **宝** 農山漁村 むら の

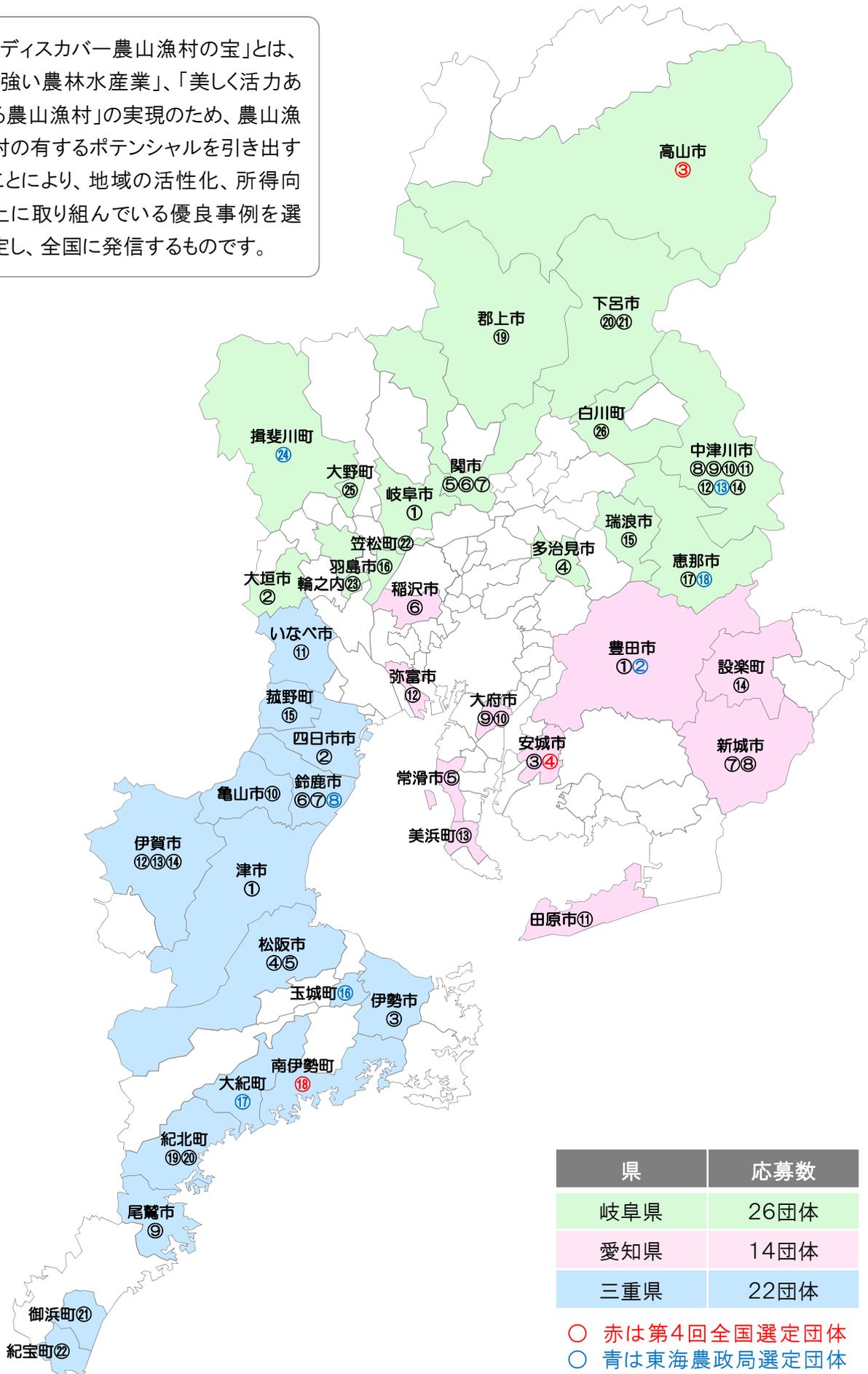
～ 東海農政局管内 応募団体事例集 ～



平成30年3月
農林水産省
東海農政局

応募団体位置図

「ディスカバー農山漁村の宝」とは、「強い農林水産業」、「美しく活力ある農山漁村」の実現のため、農山漁村の有するポテンシャルを引き出すことにより、地域の活性化、所得向上に取り組んでいる優良事例を選定し、全国に発信するものです。



県	応募数
岐阜県	26団体
愛知県	14団体
三重県	22団体

○ 赤は第4回全国選定団体
○ 青は東海農政局選定団体

目次

No.	応募団体名	市町村名	頁
岐 阜 県			
①	水土里ネット各務用水（各務用水土地改良区）	岐阜市	1
②	時まちづくり活動推進実行委員会	大垣市	2
③	有限会社飛騨山椒 チャレンジ賞 第4回選定	高山市	3
④	多治見三郷活性協議会	多治見市	4
⑤	かみのほゆず株式会社	関市	5
⑥	曾代用水土地改良区	関市	6
⑦	武芸川町特産品開発企業組合「つるや」	関市	7
⑧	加子母風起こし実行委員会	中津川市	8
⑨	加子母教育協議会	中津川市	9
⑩	加子母花づくり会議	中津川市	10
⑪	加子母むらづくり協議会・NPO法人かしもむら	中津川市	11
⑫	株式会社サラダコスモ	中津川市	12
⑬	株式会社中津川・セツ平高原 東海農政局選定	中津川市	13
⑭	どあい自然学校	中津川市	14
⑮	NPO法人ポランの広場	瑞浪市	15
⑯	健幸あじさい街道	羽島市	16
⑰	株式会社えな笠置山栗園	恵那市	17
⑱	特定非営利活動法人恵那市坂折棚田保存会 東海農政局選定	恵那市	18
⑲	岐阜県郡上市和良町宮地自治会	郡上市	19
⑳	竹原農地・水・環境保全会	下呂市	20
㉑	萩原町川西北部土地改良区	下呂市	21
㉒	羽島用水土地改良区	笠松町	22
㉓	徳川將軍家御膳米生産組合	輪之内町	23
㉔	株式会社キサラエフアールカンパニー 東海農政局選定	揖斐川町	24
㉕	柿とバラの町農地・水・環境保全組織	大野町	25
㉖	株式会社 佐見とうふ豆の力	白川町	26
愛 知 県			
①	新盛里山耕	豊田市	27
②	社会福祉法人無門福祉会 東海農政局選定	豊田市	28
③	榎前環境保全会	安城市	29
④	明治用水土地改良区 第4回選定	安城市	30
⑤	有限会社デイリーファーム	常滑市	31
⑥	宮田用水土地改良区	稲沢市	32
⑦	つくでスマイル推進協議会	新城市	33
⑧	鞍掛山麓千枚田保存会	新城市	34

No.	応募団体名	市町村名	頁	
愛知県				
⑨	愛知用水土地改良区	大府市	35	
⑩	J A 青年部	大府市	36	
⑪	ベジエール渥美	田原市	37	
⑫	鍋田土地改良区	弥富市	38	
⑬	美浜町都市農村交流協議会	美浜町	39	
⑭	奥三河つぐ高原グリーンツーリズム推進協議会	設楽町	40	
三重県				
①	株式会社いのさん農園	津市	41	
②	認定特定非営利活動法人森林（もり）の風	四日市市	42	
③	横輪町活性化委員会	伊勢市	43	
④	伊勢寺地域環境保全向上活動をする会	松阪市	44	
⑤	株式会社松阪協働ファーム	松阪市	45	
⑥	一般社団法人ひびき	鈴鹿市	46	
⑦	株式会社椿茶園	鈴鹿市	47	
⑧	農事組合法人鈴鹿山麓・NATUVE	東海農政局選定	鈴鹿市	48
⑨	特定非営利活動法人天満浦百人会	尾鷲市	49	
⑩	亀山Kisekiの会	亀山市	50	
⑪	有限会社藤原ファーム	いなべ市	51	
⑫	一般社団法人大山田農林業公社	伊賀市	52	
⑬	大野木環境保全会	伊賀市	53	
⑭	ふるさとづくり上高尾の会	伊賀市	54	
⑮	田光資源と環境を守る会	菰野町	55	
⑯	ふるさと味工房あぐり（有限会社玉城アクトファーム）	東海農政局選定	玉城町	56
⑰	大紀町地域活性化協議会	東海農政局選定	大紀町	57
⑱	農事組合法人土実樹	第4回選定	南伊勢町	58
⑲	株式会社デアルケ	紀北町	59	
⑳	三重紀北町 海・山こだわり市	紀北町	60	
㉑	尾呂志地区活性化プラン推進委員会	御浜町	61	
㉒	農事組合法人飛雪の滝百姓塾	紀宝町	62	

第4回選定

ディスカバー農山漁村の宝（第4回選定）に応募のあった全国844団体から優良事例31団体を選定。

チャレンジ賞

全国選定された優良事例の31団体の中からグランプリ及び特別賞5団体を選定。チャレンジ賞は農林水産物やその加工品の輸出に取り組んでいる優良事例。

東海農政局選定

ディスカバー農山漁村の宝（第4回選定）に応募のあった管内62団体のうち、全国選定された3団体を除いた中から優良事例として7団体を選定。

①水土里ネット各務用水（各務用水土地改良区）

～ 農地と用水路は地域の宝 手渡そう次の世代へ美しく～

◆自然・景観 ◆伝統・継承 ◆その他(自然エネルギー・施設保全・地域づくり)



水路上部空間を活用した太陽光発電



竹の子祭り



各務用水自然観察会

活動のきっかけ

農家の減少と高齢化が進み、耕作放棄地の増加と用水路の荒廃が進んでいた。各務用水土地改良区は、127年前に開かれた地域の宝物「各務用水」の復活を目指し平成20年に取組を開始。

活動の概要

- ◇使用電力の自給を目指し、平成25年より用水路の上部空間等を活用し太陽光発電を開始。
- ◇法面への竹林拡大防止対策として、竹の子を採って春の味覚を楽しむ「竹の子祭り」を開催。NPO 竹林救援隊の協力を得て地元農家と竹林の本格整備を開始。
- ◇NPO岐阜鵜酔倶楽部と協力し、耕作放棄地でサツマイモを栽培、本格芋焼酎「鵜酔」を開発。
- ◇多面的保全協議会の事務局として地域の農地、用水路等の地域の環境保全に取り組む。
- ◇青少年育成協議会及び営農組合と、地区の子供たちを対象に「各務用水自然観察会&ふるさとの秋を味わう会」を共催。

活動の成果

- ◇太陽光発電により、10基のポンプ場使用電力の90%を自給し、維持管理費を15%軽減するとともに、地域の防災施設(自立電源)のシンボルとして地域住民に浸透。
- ◇竹の子祭り、各務用水自然観察会、通学路へのひまわり植栽、芋焼酎づくり等様々な活動を通じ、地域資源の再発見や子供たちの環境学習に効果を上げるなど地域の活性化に寄与。
- ◇除草・竹伐り、水路補修・泥上げ等、農地、用水路等の多面的保全協議会の活動により、自分達の手で農地や灌漑施設を守るという自覚が生まれ、地域からの信頼が向上。

問合せ先

〒500-8384 岐阜県岐阜市藪田南5丁目14-12(岐阜県シンクタンク庁舎3F)
TEL:058-215-0751 FAX:058-216-0058

②時まちづくり活動推進実行委員会

～ 移住者に優しい時の郷 仲間と共に紡ぐご縁 ～

◆自然・景観 ◆「食」の提供・活用 ◆定住・移住



整備したウォーキングコースに看板を立てる



地みそとして復活させた「長範みそ」



砂糖菓子「舞鶴」を作っている様子

活動のきっかけ

市町村合併に向けて、30～40歳代のメンバーが10年後の時地区の姿を話し合う中で、合併後の地区の将来への危機感から住民主導の地域づくり活動が必要と感じ、平成15年に20名で組織を立ち上げ活動を開始。

活動の概要

- ◇時地区の美しい里山風景を守るために、桜並木や花壇の整備等の景観保全活動に取り組むほか、地区のシンボルの烏帽子岳の登山道を整備し、PR用のマップを制作し魅力を発信。
- ◇時地区で収穫した米と大豆を使い手作りの地味噌「長範みそ」を復活。「味噌ラスク」や「味噌饅頭」にも活用。土産に珍重されていた伝統の砂糖菓子「舞鶴」の復活に取り組む。
- ◇ウォーキングコースを整備して来訪者を対象としたモニターツアーを実施し、地域の良さをPRし交流人口を増加させることなどで定住・移住に結び付ける試みを展開。

活動の成果

- ◇烏帽子岳の登山道の整備、マップ作成等の魅力発信で登山者は年々増加。来訪者がウォーキングツアーを通じて、時地区の自然や歴史など地区の魅力を体験。
- ◇「長範みそ」と「舞鶴」が地域の特産品として軌道に乗り、他の菓子類などの特産品へも展開。
- ◇定住・移住希望者に居住フォロー等を丁寧に行うことで、7年間に18組の若い夫婦が時地区に移住。地区の活動にも積極的に参加し、移住者の外からの視点で地域の魅力を発信、活動への提案もあり、地域住民にも活気が生まれた。

問合せ先

〒503-1633 岐阜県大垣市上石津町打上535
TEL:0584-45-2367 FAX:0584-45-3051

③有限会社飛騨山椒

第4回選定

～ 地域の高齢者や女性の活躍で山椒を世界に！ ～

チャレンジ賞

◆輸出 ◆女性の活躍 ◆高齢者の活躍



地元高齢者の山椒収穫



シラ国際外食見本市への出展



女性正社員による商品開発会議

活動のきっかけ

奥飛騨温泉郷の山椒は、香りが強く優れた品質で、代々地元住民により大切に守られ育てられてきた。平成18年から、地区高齢者、女性社員と共に飛騨山椒のブランド化の取り組みを開始。

活動の概要

- ◇安定した山椒の収量確保のため、地元高齢農家の協力を得て収穫量の確保に取り組む。
- ◇女性正社員数を3名から5名に増員し(H24-H28)、女性のアイデアを取り入れた新たな飛騨山椒ブランド確立に取り組む。
- ◇国内市場への販路拡大のため、平成21年から「グルメ&ダイニングスタイルショー」へ、平成23年から「日本橋三越デパ地下の催事」へ出展。
- ◇海外市場の販路拡大を目指し、平成27年に「ミラノ博」、平成28年に「パリ・ジェトロ商談会」、平成29年に「シラ国際外食見本市」へ出展。

活動の成果

- ◇山椒農家(高齢者)の契約軒数が45軒から60軒に増加(H18-H28)、収穫量が増加6.3トンから7.9トンに増加(H24-H28)し、高齢者の活躍と地域活性化に寄与。
- ◇平成24年度に「6次産業化対策事業」の認定を受けた新商品の販売を開始、平成28年は2,156千円を売上、地元女性の雇用により、地域住民の所得向上に寄与。
- ◇国内の商談会等への出展で、大手通販会社3社と契約。海外の商談会等への出展で、今期の受注は大幅に増加。商品開発と販路拡大で、地域ブランド商品「飛騨山椒」の知名度が上昇。

問合せ先

〒506-1431 岐阜県高山市奥飛騨温泉郷村上35-1
TEL:0578-89-2412 FAX:0578-89-3328

④多治見三郷活性協議会

～ 隠れ里から新規農作物をPR、メニュー開発して農村レストランを～

◆自然・景観 ◆「食」の提供・活用 ◆女性の活躍



地元施設にて農村レストランプレオープン



東京の展示会で新規農作物をPR



新規農作物のマイクロ野菜の一種

活動のきっかけ

過疎化、高齢化が課題となっている同地区を、農産物及び農村レストラン等を柱として、農村振興・活性化するため、平成27年に多治見三郷活性協議会を設立し活動を開始。

活動の概要

- ◇東京の一流シェフを訪問し、野菜のトレンドや料理の演出方法をヒアリングして、新規農作物等の生産販売、農村レストランのメニュー開発に取り組む。
- ◇新たに、シェフの需要に対し供給の少ないマイクロ野菜を栽培、また耕作放棄地を活用した西洋野菜の栽培を開始。世界初のもみじ葉で作った茶やエキス、食べられる乾燥もみじ葉などを開発し販売。
- ◇ホテルやレストランへ新規農作物をPRするため、国際ホテルレストランショーなどに出店。
- ◇シェフヒアリングで学んだ知識を生かし、地元有名イタリアンシェフの監修でメニューを作成して、地元住民を招いて農村レストランをプレオープン。

活動の成果

- ◇直接シェフにヒアリングして新しく生産を開始した野菜が評判となり、売り上げが上昇。
- ◇展示会でのPRによって、ホテルや大規模なレストランと取引を開始。特産のもみじ商品は、現地レストラン向け商品としてフランスへ輸出を開始。
- ◇展示会でのPR活動や農村レストランのプレオープンなどに取り組むことで、地域の団結が強まり、特に女性を中心に活発な議論がされるなど集落が活気付いた。

問合せ先

〒507-0046 岐阜県多治見市甘原町787-1(株式会社もみじかえで研究所)
TEL: 0572-44-7950 FAX:0572-44-7951

岐阜県関市

⑤かみのほゆず株式会社

～ 無農薬栽培にこだわり食の安全を考え、ゆずの里作りに全力を～

◆「食」の提供・活用 ◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化



ゆず祭り



夏休み親子教室



スポーツイベント(サイクルツーリング)

活動のきっかけ

昔から各家庭の庭木として栽培されていた「ゆず」に着目し、特産品として地域を活性化したいとの思いから、平成24年に生産組合と加工組合が合併して会社を設立し、特産品ゆずの安定した生産体制と加工販売に取り組む。

活動の概要

- ◇上之保、武儀地区の180人の生産者に良質柚子の栽培指導を実施。
- ◇数々のゆず加工品を開発、搾汁後の皮を活用するなど農産物がまるごと生きる商品づくり。
- ◇児童の社会見学を受け入れ、6次産業の取組の実態を詳しく説明。
- ◇夏休み親子教室を開催し、ゆずを使った手作りデザート作り体験を実施。
- ◇ゆず祭りの開催、スポーツイベントへの協賛で市内外の参加者との交流活動を実施。

活動の成果

- ◇岐阜県下一のゆず生産量を誇り、生産・販売で「ゆずの里上之保」の知名度がアップ。
- ◇6次産業化の取組等で地域雇用の創出に寄与。
- ◇社会見学で市内3校約230人の児童を受入。夏休み親子教室は30名が参加し、年々増加。
- ◇ゆず祭りでは2000人を超える参加者と交流。併せてゆず品評会を開催し、良品生産者の表彰により生産意欲が向上。
- ◇「ゆずゼリー」「ゆず胡椒」「ゆずドレッシング」などの商品化のほか、果汁を絞った後の皮を活用したパンのあんやデザートなどへの活用を目指した試作にもチャレンジ。

問合せ先

〒501-3601 岐阜県関市上之保15060番地
TEL:0575-47-2256 FAX:0575-47-2249

⑥曾代用水土地改良区

～ 未来へつなげよう！ 曾代用水 ～

◆伝統・継承 ◆子ども(教育・体験)



曾代用水での鮎すくいイベント



水路内のウォーキング



語り部の話を聞く小学生

活動のきっかけ

地元小学校がふるさと学習の一環として、曾代用水を見学・学習することとなったのを契機に、身近な用水路の歴史や守り続ける農家について発信し、若い世代に地域の宝である曾代用水への理解を促し、これを守り、継承したいという思いから本活動を開始。

活動の概要

- ◇約350年の歴史がある曾代用水を地域の宝として後世へ守り伝える活動を実施。
- ◇地元の小学生が、曾代用水の主要施設を巡り、語り部から用水の歴史や現在の管理について学ぶ「田んぼの学校」を実施。その後壁新聞や活動報告書を作り公共施設に展示。
- ◇毎年8月1日には、曾代用水を建設した3人の偉業をたたえ、例大祭を開催。
- ◇平成27年10月に世界かんがい施設遺産として登録されたのを機に、来訪者が増加し、視察や見学の受入を通じ県内外・国外に情報発信。
- ◇地元自治体とともに、用水路内で鮎を掴む体験、水路内ウォーキングなど、見るだけでなく水路の中に入って体感し、親しめるイベントを実施。

活動の成果

- ◇地元小学生の見学会や活動報告の展示会は、マスコミにも取り上げられ、広く情報発信。
- ◇各種イベントの開催や、田んぼの学校の学習の成果で、子供達も水路の大切さを理解。
- ◇国内外からの視察や、一般のツアーで見学者が増加し広範囲に知名度が上る。

問合せ先

〒501-3217 岐阜県関市下有知6324-2
TEL:0575-22-3268 FAX:0575-22-3268

岐阜県関市

⑦武芸川町特産品開発企業組合「つるや」

～ここしかないつるむらさきうどん当然日本一～

◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化 ◆女性の活躍



東京ビッグサイトでの展示会に参加



葉っぱ隊はつるむらさきで皆元気



つるむらさき体験が大縄跳びに

活動のきっかけ

武芸川町に特産品を作りたいと考え、岐阜薬科大学に栽培しやすい野菜・薬草を相談して「つるむらさき」を紹介され、農業婦人クラブを立ち上げて栽培と加工の取組を開始。当地域が小麦の産地であったことから、「つるむらさきうどん」を製造して企業組合として法人化。

活動の概要

- ◇武芸川小学校3年生を対象に、一年を通してつるむらさきの栽培・加工体験を行う「つるむらさき」授業を6年前から毎年実施。
- ◇長良川添いの市町村が取り組む手仕事や料理・体験を提供するイベント企画の「おんぱく」に参加して、東海3県にwebで紹介。また、東京の展示会に参加しつるむらさきを紹介。
- ◇つるむらさきの生産、加工場、農家レストランまで、女性の活躍の場を提供。

活動の成果

- ◇全く未知の野菜であったつるむらさきに20年以上取り組んで、地域の特産品として認知。
- ◇つるやが「おんぱく」で募集する、つるむらさきうどん作り体験等は数日で定員に到達。
- ◇10代から86歳までのスタッフは全て女性で、農作業の機械操作、農家レストランの運営、地域の伝統食メニュー作成など、地域の女性が元気に活躍。
- ◇親しみ深いうどんに加工したこと、展示会・イベントへの参加や地域での様々な活動の展開で市や県の推奨品に認定。
- ◇つるむらさきは、非常に遅く耕作放棄地でも生育が良いため耕作放棄地の解消に期待。

問合せ先

〒501-2601 岐阜県関市武芸川町谷口1223
TEL:0575-46-1391 FAX:0575-46-1391

⑧加子母風起こし実行委員会

～ 田中千香士音楽祭 世界で唯一の芝居小屋でクラシックコンサート ～

◆伝統・継承 ◆国内観光 ◆子ども(教育・体験)



第19回 明治座クラシックコンサートの様子



加子母デイサービス出張コンサート



市内中学校で出張コンサート

活動のきっかけ

明治27年に村の有志によって建てられた芝居小屋「明治座」は劇場型の農村舞台で、毎年9月に地歌舞伎が公演されている。平成10年に明治座を訪れた東京芸術大学名誉教授の故田中千香士氏が「普段クラシック音楽に触れる機会のない山村の子どもたちに本当の楽器の音を聴かせたい」と、東京芸大の学生や音楽家により「第1回明治座クラシックコンサート」を開催。

活動の概要

◇平成10年より「明治座クラシックコンサート」を毎年開催。コンサートの期間は演奏者の数名が一週間加子母地域に滞在し、加子母地域、市内各施設(保育園・小学校・サービスセンター、市役所・病院)で出張コンサートを開催。

◇活動のきっかけとなった「子どもたちの為のクラシックコンサート」も毎年開催しており、ここ数年は隣の東白川村の中学生も参加。

活動の成果

◇明治座クラシックコンサートや加子母歌舞伎公演で「明治座」が全国に発信。

◇平成14年度からの明治座の無料開館は、平成28年度までに来館者は22万人を超える。

◇平成27年10月に明治座は、改修工事で、創建当初の板葺き石置き屋根に復元。

◇長年続く交流により、世界で活躍するようになった演奏者も、田中千香士音楽祭に合わせて海外から参加することもあり、地域の子どもたちは1年に一度、本物のクラシック音楽に触れることの出来るこのコンサートを毎年楽しみにしている。

問合せ先

〒508-0421 岐阜県中津川市加子母3519番地2 (加子母総合事務所)

TEL:0573-79-2111 FAX:0573-79-2700

◎加子母教育協議会

～ 地域が先生、大好き加子母 加子母教育の日 ～

◆伝統・継承 ◆子ども(教育・体験)



教育の日(中学2年)加子母で働く大人との談話



教職員一日研修 神宮備林にて



(小学1年)加子母昔話の読み書かせ

活動のきっかけ

◇中津川市加子母地域では過疎化・少子高齢化が進んでいる。平成18年の市町村合併で教育委員会が統合され、加子母地域として教育が稀薄となる事を心配した地域の人により、教育委員会の役割を担える組織として「教育協議会」を発足。合併前より続いていた教育の日を継続。

活動の概要

◇加子母教育協議会は「加子母の子ども達を地域ぐるみで育てよう」をテーマに地域と保育園、小学校、中学校をつなぐ学校支援活動に取り組んでいます。

◇毎年11月に開催する「加子母教育の日」は、加子母のすばらしさが大きなテーマで、「地域の人がつくる参加授業」では、地域の人が講師で学校では学べない加子母を知る授業を実施。

◇夏休みを利用して、新たに赴任してきた先生を対象に、地域を1日かけて巡り、子ども達の生まれ育った環境や地域の歴史を詳しく知ってもらう、加子母1日研修を実施。

活動の成果

◇地域の人材や文化を活かし地域の大人を招いて行う教育の日は、子どもたちがふるさと加子母の素晴らしさを学ぶ機会となり、将来地域を背負う人材育成に繋がると期待される。

◇子供たちと地域の人たちとつながりが出来る事で、地域で気軽に声かけができ、子ども達の安全安心な環境づくりにも繋がっている。

◇「地域の人がつくる参加授業」では、先生役の地域の高齢者も大変に張り切っており、子どもだけではなく多くの大人にも参加して欲しい面白い参加型授業参観

問合せ先

〒508-0421 岐阜県中津川市加子母3519番地2 (加子母総合事務所)

TEL:0573-79-2111 FAX:0573-79-2700

⑩加子母花づくり会議

～ 住民総出の花づくり 地域を動かす子ども達 ～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験)



国道沿いに咲く花 8月頃



アドバイザーから中学生に指導



花づくり当日の作業

活動のきっかけ

加子母の中学生が国道沿いのゴミ拾い美化運動の一環で、地域の一部有志が行っていた花植え活動に関わったことがきっかけとなり、昭和59年に花づくり会議が組織され、中学生たちと協力して花づくりを全地域活動として推進。

活動の概要

◇中学生が育てた花苗を地域住民総出で、加子母地域を通る国道257号線沿い約10kmに移植する活動を実施。現在は全域でベゴニアを植えている。

◇「花づくり」当日には、加子母地域の大人から子どもまでが集まり一斉に花を植え、併せて周辺の美化作業(草刈り、ゴミ収集など)を実施。作業の終了後には各区でレクリエーションや親睦会を開催し地域住民の交流を行っている。

◇花の管理(夏場の水やり、除草など)は月に数回、花が枯れる11月末頃まで地域住民が実施。

活動の成果

◇地域全体による花植えと花の管理を実施することで、景観美化や清掃の意識が高まった。また、同じ花植え活動を行う、隣接する付知地区と花づくりの情報を共有し連携を計画。

◇加子母地域の国道沿いを彩る花は、夏から秋の風物詩として加子母地域住民や、国道を通る観光客に広く親しまれている。

◇住民総出の花づくりは中学生の「花咲委員会」が主体となり、地域と協力して花を育てていくため、地域活性化や青少年の育成、生涯教育に効果を発揮。

問合せ先

〒508-0421 岐阜県中津川市加子母3519番地2 (加子母総合事務所)

TEL:0573-79-2111 FAX:0573-79-2700

岐阜県中津川市

⑪加子母むらづくり協議会・NPO法人かしもむら ～ 出かけよう！「かしも軽トラ朝市」！～

◆地産地消 ◆高齢者の活躍 ◆その他(子育てママや女性の収入)



軽トラ市全景



野菜や果物のお店



ママの手作りショップが大人気

活動のきっかけ

加子母地区における、少子高齢化対策、農林業の後継者確保、遊休農地の活用、女性や高齢者の収入源確保などの課題解決のため、むらづくり協議会の地域づくり分科会で平成24年度から2年がかりで検討・準備をし、51名の出店者で、第1回軽トラ市開催。

活動の概要

◇地域づくり対策の一環として「軽トラ朝市」を開催。毎年6月～11月までの第3日曜日に開催し平成29年11月で21回目の開催。毎月200人～300人が来場。年間2000～3000人来場。

◇出品は野菜、果物、花、苗、木工品が中心で、毎月出店者に種まき情報や出店情報を個別配布し、出店者の継続、増加、資質向上の工夫を図る。

◇20名からなる軽トラ市振興チームを発足し、月一回会議を開催して運営振興を図る。

活動の成果

◇軽トラ市は単なる産直市場だけでなく、防災グッズや防災食体験、子育て世代の交流、地域のハローワーク情報提供、観光情報の提供、アンケートの収集、域学連携の大学生の活動など地域インフラとして活用が広がる。隣町からの出店希望者があり今後の拡大に期待。

◇軽トラ朝市の認知度が上がり、リピーターや固定客が増加。

◇出店内容も、子育て中のママの手作りショップ、キッズ遊び場、明治座歌舞伎グッズ、防災ブース、手作りギター、木工品など多様化した。域学連携の大学生の協力人数も増加。

問合せ先

〒508-0421 岐阜県中津川市加子母3519番地2 (加子母総合事務所)

TEL:0573-79-2111 FAX:0573-79-2700

岐阜県中津川市

⑫株式会社サラダコスモ

～「ちこり」で地域、高齢者、農業の元気！～

◆伝統・継承 ◆「食」の提供・活用 ◆6次産業化



ロコミで人気の栗きんとん絞り体験



モーニングも発芽野菜のビュッフェ



日本一野菜が食べれる
オーガニックレストラン

活動のきっかけ

休耕地の増加、後継者不足の課題を解決できる野菜として欧州の「ちこり」国産化に挑戦。農業に親しみ学ぶ場として、地域社会の活性化にも貢献できる農業教育型観光生産施設「ちこり村」を立ち上げ、農業の振興、自給率向上、高齢者雇用等の地域活性化を目指す。

活動の概要

- ◇中津川は栗きんとん発祥の地、地元の大切な食文化を残したいとの思いから、地元のおばあちゃん達から地元の歴史や文化、栗きんとんの作り方などを教えてもらいながら、自分だけのオリジナルお土産を作ることができる、栗きんとん絞り体験を提供。
- ◇無添加・無農薬・無漂白のもやし栽培、かいわれ大根の無農薬・無化学肥料栽培、子大豆もやしの商品化など常に安全、安心のキーワードで商品開発。
- ◇地元農家で採れた食材で手づくり家庭料理を提供するレストランやベーカリー、カフェ、チコリ工場の見学コース、チコリから作る焼酎の製造工場見学など、老若男女が楽しめる「ちこり村」で生産加工販売体験を実施。

活動の成果

- ◇栗きんとんクリームデニッシュなど中津川の特産品を使ったパンやスイーツも開発。
- ◇栗きんとん絞り体験などは人気が広がり、子供会や老人会、家族やお友達同士など幅広い来客によってちこり村の年間来場者が増加。

問合せ先

〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林1-15
TEL:0573-62-1545 FAX:0573-62-2170

⑬株式会社中津川・七ツ平高原

東海農政局選定

～ 元気な高齢者・女性が地域の課題を解決！ ～

◆雇用 ◆6次産業 ◆その他(耕作放棄の解消)



整備した栗畑。ごみ減量も兼ねて栗の殻を敷いている



名古屋市の朝市村で販売



あじめこしょうの乾燥

活動のきっかけ

平成16年、知人農家の依頼で耕作困難で耕作放棄地となっていた農地を買取り、本業の土建業で使用する重機を駆使して2年を掛けて畑に整備、名産品の栗や伝統野菜等の栽培を開始。

活動の概要

◇耕作放棄地を整備し、特産の栗350本を植栽し1t以上を生産。また、管理困難となった農地を借入し、年間約120品目の有機栽培農産物を生産、名古屋市の朝市村等で消費者に直売。

◇栽培困難な伝統野菜の在来種の唐辛子「あじめこしょう」の栽培に取り組み800本を栽培、平成23年から6次産業化に取り組みラー油「あじなラー油」や伝統的な味付のおかずみそ「あじなみそ」に加工し販売。

◇市から「ふれあい牧場」の運営を受託し、レストラン経営、牧場体験、農業体験を実施。

活動の成果

◇管理困難な農地の借入依頼が増加し、放棄地になる前に借り受けることで、耕作放棄地化を未然に防止。整備した耕作放棄地と合わせて3.8haを活用し、野菜、栗、米、椎茸等を栽培、直売での対応から栽培品目を増やし、年間の売上は約1200万円。

◇地元の和菓子店と提携し特産品の栗菓子の原料として栗を出荷、栗の地産地消が広がる。

◇伝統野菜「あじめこしょう」の認知度が上がり、加工品の販売も安定。

◇農作業や農業関連事業に加え、ふれあい牧場の運営を受託し、地域の高齢者や女性に働く場を提供。また、牧場体験、農業体験の提供で名古屋市の朝市村等の消費者との交流が拡大。

問合せ先

〒508-0006 岐阜県中津川市落合314-15

TEL:0573-67-9488 FAX:0573-67-9489

⑭どあい自然学校

～「どあい自然学校」で親子自然体験学校～

◆自然・景観 ◆「食」の提供・活用 ◆子ども(教育・体験)



火を起こし、釜でごはんを炊き、はしをつかって青竹とほう葉で青竹ハンバーグを作って食べる



冷たい透明な水で川遊び



親子で協力して食事づくり体験

活動のきっかけ

当地は、15年ほど前までは、「らんぷの森どあいビレッジ(キャンプ場、オートキャンプ場)」としてにぎわっていたが、土砂崩れで道路が通行止めになってから休止状態だった。

平成24年から加子母むらづくり協議会が中心になって再開発に着手し、草刈作業や伐採等の環境整備を行い「どあい自然学校」を開校。

活動の概要

◇コンセプトに、「電気もない、携帯も通じない自然の中で文明から離れて自然の中で生きる力を育むこと」を掲げ活動。

◇子ども会の親子を対象に、火起こし体験、食事作り、自然のものを利用した器や箸づくり、川遊び、植物、動物等の自然観察を実施。

活動の成果

◇今までの活動が評価され、平成29年には5つの区の子ども会親子から申し込みがあり、約250名の親子が、「どあい自然学校」に参加。

◇5年前に、人が集まることを目的に様々な取組を進め、「どあい自然学校」を始め「アイチカラ」の合宿や、「加子母るツアー」等で、活気が戻る。

問合せ先

〒508-0421 岐阜県中津川市加子母3519番地2 (加子母総合事務所)

TEL:0573-79-2111 FAX:0573-79-2700

⑮NPO法人ポランの広場

～ 六次産業化+四つ葉のクローバ=十字産業化 ～

◆6次産業化 ◆医療・福祉 ◆定住・移住



ハウス内のブドウの栽培状況



ログハウスとトレーラーハウス



小学生の農業体験

活動のきっかけ

少子高齢化等、地域の様々な問題・課題に対し、住民自らが課題解決し地域活性化に取り組むため、地域住民の参加を仰ぎ、地域資源・人材を活用した組織を編成。

活動の概要

- ◇農業生産は、畑1ha、パイプハウス11a、養殖場5a、椎茸1,700本等で、各種野菜・各種果樹・アマゴ・椎茸等を通年生産販売。
- ◇「しあわせの杜」でピザ・バーベキューを提供。来年度から農産物加工食品を販売予定。
- ◇各種農業施設を開放し、地域住民をはじめ農業体験希望者に農業体験コースを提供。
- ◇定住促進の一助となるトレーラーハウス3台とログハウス1棟、6畳と8畳の2部屋を管理。
- ◇農の持つリフレッシュ・リハビリ効果を生かすため、医療機関・福祉施設等と協働。

活動の成果

- ◇地域が抱える様々な課題・問題に対し、農業生産、農産物加工食品化、農業体験、遊休農地対策・空き家空き店舗対策、都市と農村交流、農村景観等について活動実績ができた。
- ◇農業体験は果樹・野菜・アマゴ・ピザ・高齢者・障害者などの12コースを実施。
- ◇一般社団法人MOAインターナショナルと有機農法・統合医療で協働事業を模索。MOAと統合医療の共同研究をはじめ、実践部門を担当。
- ◇地元の高齢者及び女性の雇用の場として期待され、高齢者の憩いの家・地域住民の集いの場としての役割もあり、地域住民の福祉の向上の一助となっている。

問合せ先

〒509-6362 岐阜県瑞浪市陶町水上267-1
TEL:090-4187-5309 FAX:0572-65-2358

⑩健幸あじさい街道

～ あじさい街道ウォーキングで健幸に！～

◆自然・景観 ◆伝統・継承 ◆子ども(教育・体験)



ウォーキング



あじさい植樹



農業用水路のPR

活動のきっかけ

正木町のシンボルであるあじさいへの親近感の醸成と高齢化が進む地域の健康増進を目的として、平成2年に地域の有志で「健幸あじさい街道」を組織し、日本一のあじさい街道を目指して、ウォーキングイベントを企画。

活動の概要

◇親水機能が整備された羽島用水上面道路(約2km)にあじさいを植樹して管理を行い、地域住民を対象にウォーキングイベントを開催。

◇ウォーキングに併せて、正木町文化芸能振興会と協力し、地域に伝わる正木音頭やあじさい踊りの披露や子どもの写生大会、園児による俳句の出展などに取り組むほか、羽島用水土地改良区と協力して、農業用水路の紹介やウォークラリー、センパラ等の生き物紹介も実施。

活動の成果

◇ウォーキングイベントはこれまでに21回開催され、毎年約300～400人が参加し、健康増進に加え、地域住民が正木町のシンボルのあじさいに親しむ場が提供され、親近感が醸成。

◇あじさいが植栽された道路や水路がパイプライン化された農業用水路の上部利用であることをPRすることで、農業用水の役割や用水路が生活環境の一部となっていることを再認識。

◇子ども達が、地域の自然、農業及び伝統文化を題材とした教育の場を提供。

◇イベントを通じ、世代を超えて地域の親睦が深まるとともに、正木町の伝統芸能である踊りなどが、親世代から子世代に伝承。

問合せ先

〒501-6229 岐阜県羽島市正木町坂丸4丁目54-2 (正木コミュニティセンター)

TEL:058-392-6655 FAX:058-392-2822

⑰株式会社えな笠置山栗園

～「めざせ 日本一」 楽しい日本一の栗づくり～

◆企業 ◆雇用 ◆その他(まちづくり(地域の発展))



農業体験の受入



感謝祭で市民と触れ合う社員



雨の中、栗苗木を植える小学生

活動のきっかけ

長年の課題となっていたグリーンピア恵那跡地の有効活用を目指し、平成21年地元の検討会が栗園の開発を合意、生産組合を設立し栗栽培を開始、平成28年5月株式会社として法人化。特産品の栗の栽培拡大と地域住民の「まちづくり」を実施。

活動の概要

- ◇農業、栗栽培への地域や若者・子供の関心を高めるため、栗園において、市民、農業高校生や子供を招待して植樹祭(栗苗木の新植)を開催。秋の収穫期には、感謝祭、収穫祭を開催。
- ◇地域福祉を担うNPO法人「まめに暮らそまい会」と連携し、不良栗果を「むき栗」に活用。
- ◇(一社)恵那市観光協会と連携して、栗拾い及び選別体験、棚田百選の「坂折棚田」棚田の見学、NPO法人まめに暮らそまい会での「栗きんとん」製造体験等の体験ツアーを実施。
- ◇全国農協観光主催の援農ツアー(田舎暮らし体験)を受入れ、農作業体験の機会を提供。

活動の成果

- ◇栗園開設(H29年:約16ha、約6,500本)により地域の住民が農業や地域づくり活動に取り組み、植樹祭、収穫祭などの開催により、地元の若い世代へ栗園や農業に対する関心が高まる。
- ◇株主は60～70歳代が中心であるが、現役世代の者3人を含み、栗園で働きたいとの問い合わせも複数届いており、夢である現役世代への経営引継ぎの端緒が見え始めた。
- ◇特産品の「栗きんとん」など栗菓子製造のため、原料の栗増産とあわせて恵那市観光協会と連携し観光栗園事業による交流人口増加にも寄与。

問合せ先

〒509-8231 岐阜県恵那市中野方町1710番地3
TEL:0573-32-1598 FAX:0573-32-1598

⑱特定非営利活動法人恵那市坂折棚田保存会

東海農政局選定

～ 水源の森を守り、美味しい棚田米づくり ～

◆自然・景観 ◆「食」の提供・活用 ◆その他(水源の森保全活動、木の駅プロジェクト)



「石積み塾」石垣の補修



田の神様灯祭り



山ガールの間伐作業
(水源の森実行委員会)

活動のきっかけ

平成11年に日本棚田百選に選定され、平成15年の第9回全国棚田サミットの当地開催を契機に、棚田・里山の保全活動を開始。平成20年にNPO法人恵那市坂折棚田保存会を発足。平成24年に棚田水源域を整備(涵養林づくり)のために「水源の森実行委員会」を立ち上げ、木の駅プロジェクトに参加し、緑のダムづくりに取り組む。

活動の概要

- ◇「森の健康診断」による間伐や水源地調査、木の駅プロジェクトへの参加等で、棚田の用水確保のほか、災害防止や獣害対策等多様な役割を持つ里山と棚田を一体で保全する活動を実施。
- ◇土づくり、施肥管理、低農薬、天日干し等の品質管理により棚田で食味の良い米を生産。
- ◇伝統的な石積みの技法を習得する「石積み塾」を開催、技術の習得と石垣の補修を行う。
- ◇平成17年より稲作のオーナー制度を開始、各種の体験やイベントを通じ都市住民と交流。

活動の成果

- ◇棚田の水源域140haの山づくりに「水源の森実行委員会」を中心に年間延べ約250人が参加。林地残材を木の駅へ搬出し地域通貨(モリ券)に替えることで山づくりへの意識が向上。
- ◇美しい石積み棚田の景観、稲作オーナー制度等の体験、「田の神様灯祭り」「刈り株祭り」等のイベントの充実により、訪問者数がH23年の4,361人からH28年は8,273人に倍増。
- ◇品質管理のもと棚田で収穫された米を坂折棚田応援米として販売、食味良好と高い評価。

問合せ先

〒509-8231 岐阜県恵那市中野方町782-1
TEL:0573-23-2032 FAX:0573-23-2046

⑱岐阜県郡上市和良町宮地自治会

～ 奥美濃平成の里人＝宮地集落 ～

◆自然・景観 ◆伝統・継承 ◆鳥獣被害防止



用水路法面に芝桜ロード造成



畦畔の抑制ネット・シート設置



退散鳥獣(銃)と絆ベストで追い払い

活動のきっかけ

少子、高齢化、農業の担い手不足、鳥獣被害で遊休農地の増加が懸念され、住民の拠所で誇りである神社・祭礼文化の継承が困難になり、集落の愛着と絆が失われることの危機感から、集落をあげて地域資源を活かしたむらづくり活動を平成9年に開始。

活動の概要

- ◇水田と稲作を守るため、各種の鳥獣侵入防止柵「猪鹿鳥無猿柵^{いのしかちょうむえんさく}」を集落内に手づくりで開発し実証、設置。また、鳥獣追い払い花火発射装置「退散鳥獣^{たいさんちようじゆう}」の開発、実証、普及。
- ◇雑草抑制ネット、防草シートを水田畦畔、農道・用排水路の法面に設置し、除草を省力化。また、防草シートマルチにより用水路法面に芝桜ロードを整備し農村景観を整備。
- ◇戸隠神社、御神木の「一本杉」、古代御神体の「重ね岩」等の維持保全管理。地域の案内看板やマップを作成。祭礼行事への都市住民の参加促進や、伝承組織を育成。

活動の成果

- ◇鳥獣被害防止対策活動、耕作放棄対策活動の中で、各種器具、機材、施設を開発し、実証・展示。全国からの研修視察により、開発した器具等が全国へ普及。
- ◇有害獣の捕獲推進から、獣肉処理加工施設「和良地美恵工房」がオープン。
- ◇雑草対策により、担い手への農地利用集積が進展。また、耕作放棄地が解消。
- ◇農村環境が良くなり、集落の絆も深まり、暮らしやすいと評判で、県内外から移住に繋がる。
- ◇神社、祭礼について情報発信やイベント等によって、観光資源としての認知度が広まる。

問合せ先

〒501-4292 岐阜県郡上市八幡町初音1727-2(岐阜県郡上農林事務所)
TEL:0575-67-1111(内線241) FAX:0575-67-0961

②竹原農地・水・環境保全会

～「美しい田園・頑張る農村！」いやしの里 竹原～

◆自然・景観 ◆国内観光 ◆6次産業化



稲刈り体験ツアーで都市住民と交流



「かわら版」の発行



満開の芝桜

活動のきっかけ

竹原地区は2度の合併で地域の連帯感や住民同士の意思疎通の希薄化・伝統文化の継承等に危機感を抱いていた。平成19年4月に農地・水・環境保全向上対策に取り組む4組織を結成、各代表を中心に農村環境の保全と竹原地区の連帯感再生のため全住民を会員とした本会を設立。

活動の概要

- ◇農道、農業用水路の土手に芝桜などの花を植え、「花の見どころスポット」を整備。
- ◇棚田や休耕地を活用して、そば畑や花の見どころを整備、各地区には「ふれあい農園」を開設し、トモロコシ等の体験作業に毎回130名程の参加があり世代間の交流に寄与。
- ◇地元産米(銀の胄)を使い五平餅を考案(6次産業化)し、H28年度は約200万円を販売。
- ◇平成25年度より隣市の中津川市の若手農家と地元農家が共同で、市境の峠において「うまいもん祭り」を開催、人気イベントで1日5,000人の集客。

活動の成果

- ◇花の見頃には下呂温泉から、観光客の来訪が年々増加しH29年度は3,500人以上。
- ◇地域全戸参加の取組により地域の結びつきが強まり、特にふれあい農園での体験作業を通じ高齢者の生きがいと子どもたちの農業・農村に対する理解が深まった。
- ◇活動情報の共有を図る「かわら版」を発行し、住民の自発的な環境保全・景観整備活動が活発となった。地区外からの入り込み客の増加に伴い、自主的に四季折々の花を植える等住民におもてなしの心が芽生え個々のむらづくりに対する意識向上が図られた。

問合せ先

〒509-2313 岐阜県下呂市 野尻861番地1
TEL:0576-26-2519 FAX:0575-26-2519

②1 萩原町川西北部土地改良区

～「もっとも大切な地域の財産北部用水」 萩原町川西北部土地改良区～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験)



川西北部用水の生き物調査



川西北部用水の水路トンネル探検



尾崎小学校 出前授業

活動のきっかけ

平成10年度の幹線水路改修に伴い、ビオトープの設置など、地域住民の憩い場としての水環境施設整備が契機となり、農地の多面的機能の保全・再生を目的とした活動を展開。

活動の概要

- ◇地区の子供たちへ、川西北部ふる里守り隊、萩原町丹精米生産組合と一緒に「水田魚道」付近での生き物観察のほか、小学校への出前授業、水路トンネルの施設探検等を実施。
- ◇平成14年度に水路の一部改修で設置された約2kmの管理道沿いに、ケヤキ、トチなどの苗約800本、翌年ヤマザクラ、ナンテン、ハナノキなどの苗木500本を植樹し景観を整備。
- ◇平成25年度から人と野生生物とを隔てる緩衝地帯(バッファゾーン)として里山を帯状に整備、花木・広葉樹の植樹及び半自然草地を設置し草刈り等の管理を実施。

活動の成果

- ◇活動により、自治会、婦人会、子供会、教育機関、市、県との連携が構築された。
- ◇将来を担う子どもたちの、土地改良施設への関心や愛着が高まり、先祖代々守ってきた施設を継承することを目的とした活動の展開に期待。
- ◇活動を通じて住民の地域の自然資源を守る意識と理解が高まり、自治会が協力的となって積極的な活動により、土地改良施設の機能保全や地域資源の保全強化に繋がった。
- ◇植栽事業で用水路沿いが花いっぱいになり、散策道として地元住民や来訪者に親しまれており景観整備と水路への愛着が育っている。

問合せ先

〒509-2507 岐阜県下呂市萩原町野上512
TEL:0576-54-1333 FAX:0576-54-1333

②羽島用水土地改良区

～ こどもとあゆむ羽島用水 ～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験)



マス釣り大会



出前授業



ホタルの幼虫・カワニナの放流

活動のきっかけ

地域の都市化が進み、住民の農業に関する意識が希薄になる中で、農業・農業用水が地域に果たす役割について理解を深めることを目的に、子どもをターゲットとした広報活動を実施。

活動の概要

◇パイプライン化された羽島用水の上部を利用して「せせらぎ水路」を整備し、地域住民を対象としたウォーキングイベントにおいて、パンフレットやパネルを用いて地域の農業用施設を紹介するとともに、ウォークラリーやセンパラ等の生き物紹介も実施。

◇地域の小学校からの要請で、羽島用水の歴史や役割について出前授業を実施。

◇農地・水保全管理活動を行う「おぐまちふう小熊知風の里作りネットワーク協議会」が実施する水路の美化活動に併せて、用水路をマス釣りやホタルの幼虫放流の場に提供。

活動の成果

◇都市化が進む中、せせらぎ水路等の自然と調和した景観が、地域への愛着をより高める効果を発揮。

◇小学生への出前授業等において、羽島用水の歴史、土地改良区の仕事、農業用施設の果たす役割等を説明し、地域の農業を開発してきた先人への理解が深まった。また、児童が家庭で出前授業の話をする事により、農業水利施設が果たす役割への理解が地域に広まった。

◇マス釣り大会やホタルの幼虫放流など、農業用水路を活用したイベントに協力することで、農業用水が地域の自然環境を育てていることについて地域住民に認識。

問合せ先

〒501-6074 岐阜県羽島郡笠松町新町42

TEL:058-388-2626 FAX:058-387-7274

岐阜県輪之内町

②③徳川将軍家御膳米生産組合

～輪中から発信する輪之内のブランド米～

◆伝統・継承 ◆「食」の提供・活用 ◆子ども(教育・体験)



徳川将軍家御膳米生産組合のメンバー



お田植え式の様子



収穫祭の様子

活動のきっかけ

岐阜県外にほとんど流通のない品種の「ハツシモ」のブランド化とPR、輪中地帯の伝統的な米作りの後世への伝承を目指し、町内の各営農組合が集まり平成25年に生産組合を設立。

活動の概要

- ◇5月に「お田植え式」9月に「収穫祭」を開催し、手植えや手刈りの作業、昔の農機具使用体験で、地域の子供達に輪中の米作りの伝統継承。徳川将軍家御膳米の試食を実施。
- ◇関係機関が協力し、地下水を利用した輪之内町産ハツシモを「徳川将軍家御膳米」としてブランド化し、加工品も開発。
- ◇徳川将軍家御膳米PRのために、展示会、商談会、物産展などに積極的に参加。

活動の成果

- ◇農業体験には毎回約80名が参加し、伝統農法の継承と都市部からの来町者の増加に寄与。
- ◇徳川将軍家御膳米、それを活用した加工品は展示会等で好評で、生産者のモチベーションが向上し、生産面積は当初の31haから、平成29年は110haに拡大。
- ◇「田植え式」や「収穫祭」の行事、徳川将軍家御膳米の給食への提供、小学校の総合学習の時間等での御膳米の学習で、未来を担う子供達の食・農業への関心が高まる。
- ◇徳川将軍家御膳米の加工品として、平成26年に「徳川将軍家御膳酒」、27年に「輪中パッカン」、28年に徳川将軍家御膳米と輪之内町産黒豆を使用した「御膳米黒豆ごはん」を発売。輪之内町および徳川将軍家御膳米の知名度と経済的効向上に一層の期待。

問合せ先

〒503-0292 岐阜県安八郡輪之内町四郷2530-1
TEL:0584-69-3111 FAX:0584-69-3119

②株式会社キサラエフアールカンパニーズ

東海農政局選定

～ 食の地域資源を活用した町づくり、人づくり！ ～

◆ジビエ ◆6次産業化 ◆鳥獣被害防止



地域の若い狩猟者へ捕獲技術や場所を提供



ぎふジビエ解体人材育成プログラム



ジビエを使った
食肉加工メニュー

岐阜県初！ジビエ給食

活動のきっかけ

揖斐川町では獣害による農作物被害が増加し被害防止の要望が高まる中、地域住民による侵入防止柵設置作業への支援、わな猟免許や銃猟免許の取得の推進等により、平成25年から鳥獣被害対策事業を本格化。

活動の概要

- ◇岐阜大学と連携して、ジビエ活用に適した捕獲技術の普及と若年層をターゲットにした捕獲者の人材を育成し、また、ぎふジビエガイドラインに基づく解体処理の人材も育成。
- ◇平成28年にレストランと食肉製品加工所を開業し、ジビエメニュー開発やレシピを監修。
- ◇ジビエ料理を食しながらの獣害対策成果報告会開催など、食を通じた地域との交流を実施。
- ◇飲食店のオーナーやシェフを招き、捕獲、運搬、解体処理等のジビエの現状視察を実施。

活動の成果

- ◇常時、捕獲及び解体処理が出来る体制(解体処理施設設置)を構築し新たな雇用を創出。
- ◇地域ぐるみの侵入防止柵と捕獲体制の構築(狩猟免許取得、捕獲補助者育成)で獣害が減少。
- ◇メニューやレシピの提供で、ジビエの新たなコンセプトとイメージを作り付加価値を創出。
- ◇県下初の試みとして、町内の学校給食に3,000食分の鹿肉カレーを提供。
- ◇シェフ等の現地視察により食肉への安心感と付加価値への理解が深まり、飲食店でのジビエ需要の拡大を牽引。

問合せ先

〒501-1303 岐阜県揖斐郡揖斐川町谷汲長瀬字岡田1836-1

TEL:0585-55-2753 FAX:0585-56-3117

②⑤柿とバラの町農地・水・環境保全組織

～ 柿とバラの町の住民一体での農村環境保全 ～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験) ◆定住・移住



地域住民共同での水路の泥上げ作業



標語優秀作品の掲示看板



地元中学生インターンシップ

活動のきっかけ

農業従事者の高齢化と混住化に伴い、農業・農村の崩壊が懸念される中、農地・農村環境の保全と集落機能の強化、地域の活性化を目指し、「農地・水・環境保全向上対策」に取り組むこととし、平成19年に町内全体をエリアとする広域活動組織を設立して活動を開始。

活動の概要

- ◇町全域で水路の泥上げ、法面の草刈等を実施。組織として草刈機等を準備することにより、地域活動への非農家の積極的な参加が促進、農村環境を守る意識が向上。
- ◇用水路への土砂流入を防ぐ防草シートとカバープランツを組み合わせた法面管理を実施。
- ◇自然環境について学ぶ「ホタルの勉強会」、町の活性化を目指すNPO法人や農事組合法人と連携した「かかし祭り」、「田んぼアート」等に取り組む。
- ◇子供を対象に環境保全に関する標語・ポスターコンクールや農業体験実習等を実施。

活動の成果

- ◇住民みんなで地域活動を行うことで、地域コミュニティが醸成され、かかし祭りや田んぼアートなど新たな活動が発案され、元気で魅力あるまちづくりに繋がっている。
- ◇カバープランツの植栽は用水路管理の省力化に加え、美しい景観を形成。女性や子どもが楽しめる活動として定着し、地域活動への参加人数の増加に繋がる。
- ◇活動を通じて、住民の農村環境に対する意識や地元への愛着が高まり、将来を担う地域の子供たちの、農業・農村・ふるさとを大切にする意識の向上につながっている。

問合せ先

〒501-0592 岐阜県揖斐郡大野町大字大野80番地
TEL:0585-32-3541 FAX:0585-32-1519

②株式会社佐見とうふ豆の力

～ まめ（元気）な女たちがまめ（豆）で地域を盛り上げる ～

◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化 ◆女性の活躍



地区内小学生の豆腐づくりの様子



佐見とうふ豆の力の従業員



カフェ開店当時の提供メニュー

活動のきっかけ

過疎化・高齢化が進み、地区に伝わる豆腐づくりが途絶えてしまう危機感から、地域の集落営農組合で生産する大豆の加工への取組が検討され、営農組合の女性グループを中心に、平成20年4月「佐見大豆加工研究会」が発足し豆腐の生産を開始し、平成22年4月に法人化。

活動の概要

- ◇地区内の小学校の子供たちに地域の特産物、加工に関心をもってもらう取組を継続的に行っている。また、自社製品を給食の食材として提供するとともに、総合学習の中で豆腐や油揚げの製造工程の説明や、おからを使ったおからボールづくり体験などを実施。
- ◇6次産業化に取り組み、豆腐、油揚げ、湯葉等を生産し地区内外で販売。
- ◇現在従業員の8名は全て女性で、地区内での女性の活躍の先駆けとなった。

活動の成果

- ◇町内の集落営農組合と購入契約を結び、町内産の大豆を使用することで、営農組合の安定した収入につながり、活動は地区の農業生産継続・発展に寄与。
- ◇地域外の消費者を白川町内に誘客する施設として、店舗に隣接する形でカフェをオープン。豆腐を使ったスイーツや、できたての揚げなど魅力的なメニューを提供。
- ◇当該団体の活躍により、地区内の女性農業者が新たに事業を始めるなど、女性参画の先駆けとして活動が地区内に波及。

問合せ先

〒509-1192 岐阜県加茂郡白川町上佐見456
TEL:0574-76-2688 FAX:0574-76-2688

愛知県豊田市

①新盛里山耕

～ エコでおしゃれな21世紀の里山暮らし～

◆定住・移住 ◆高齢者の活躍 ◆その他(都市と農山村の交流)



年末恒例のお楽しみ耕流事業の餅つき体験



耕作放棄地が見事に蘇った農地



里山の食文化を継承する旬裁食講座

活動のきっかけ

田舎を放置し荒らしてしまった先祖伝来の山や田畑を美しい里山に再生し、次世代を担う子供や孫たちに引き継ぎたい思いから、定年退職の年齢を迎える仲間が集まって事業を開始。

活動の概要

◇農業体験等の都市住民との耕流(交流)活動を通じて、豊田市役所と協働し「空き家情報バンク制度」の啓蒙など定住促進活動を展開。

◇里山での一年の暮らしの営みを作物の栽培から食を通じて楽しみながら体験できる「旬裁食講座」、地域の農産物を使った「田舎料理講座」や「石窯活用講座」などの各種の体験講座を開催し都市住民との耕流(交流)に取り組む。

◇農業体験、地域料理体験、わら細工体験の講師として、また各種耕流(交流)活動のスタッフとして地元高齢者が活躍。

活動の成果

◇市民農園開設や企業連携による農業体験塾への活用で耕作放棄地が大幅に減少。地区の耕作放棄地は平成24年の87%から平成28年の11%に大幅に減少。

◇様々な取組を通じて地域力が高まり、ジビエ工房開設、産直市場の開設等新たな産業が発生。

◇地域住民だけでなく、外からの力を借りることで「里山」の姿が取り戻されつつあり、「人との繋がり」の中で、この地で生きていく楽しさ、生き甲斐を見いだせ、また人口増にもつながった。

問合せ先

〒444-2424 愛知県豊田市足助町宮ノ後26-2 (豊田市役所足助支所)

TEL:0565-62-0601 FAX:0565-62-0606

②社会福祉法人無門福祉会

～ 自然栽培でニッポンを健康に！ ～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験) ◆医療・福祉



地元小学生と障がい者による総合学習での田植え



農業生産法人といちごの自然栽培



ジャム加工場

活動のきっかけ

障がい者の就労支援として慣行農法を行っていたが、障がい者の賃金向上に結び付くよう、愛媛県内の福祉事業所の指導を受け、付加価値の高い自然栽培の取り組みを開始。

活動の概要

- ◇休耕地4haを借り受けて、市内の農業生産法と連携し自然栽培で米や野菜、果樹を生産。
- ◇地元小学校の総合学習で自然栽培の米作り学習を実施。文科省の土曜学習応援団にも登録。
- ◇定年後に地域での担い手となることも視野に、地元企業と連携し、社員ボランティアの協力を受け田んぼの再生を実施。
- ◇6次産業化に取り組み、自然栽培のイチゴを使ったジャムを生産し地元スーパー等で販売。

活動の成果

- ◇休耕地の再生利用、無施肥、無農薬の自然栽培により自然環境の保存、景観の維持に寄与。
- ◇自然栽培や6次産業の取組は、手作業が多く仕事の細分化できるため、障がい者一人一人にあった作業の提供が可能となり、障がい者の働きが良くなった。
- ◇環境に優しい自然栽培への取組は、障がい者だけでなく地域の人たちが参加し易く、小学校の学習や企業との連携にもつながった。
- ◇地域の休耕地を積極的に利用して農地を拡大する中で、地域に多くの協力者が現れ取り組みが進展し高齢者や新規就農を目指す若者の雇用につながった。

問合せ先

〒470-0376 愛知県豊田市高町東山7番地43

TEL:0565-45-7883 FAX:0565-45-7886

③榎前環境保全会

～いつでも福祉・いつでも防災・いつでも環境～

◆自然・景観 ◆「食」の提供・活用 ◆子ども(教育・体験)



水田魚道と観察水田周辺で生き物観察会



農業体験(伝統農法)稲架掛け



炊出し訓練も兼ねたイベント等での賄い

活動のきっかけ

農業者の高齢化・兼業化が進み、住民交流が希薄となり集落の維持に危機感を募らせていた中、平成14年度から「福祉」「防災」「環境」をコンセプトに町内全戸参加のふれあい活動を開始。18年度に水田魚道を設置し生き物観察会を開始、19年度には農地・水・環境向上対策の活動組織を設立し、子どもから大人まで集落全体で活動を推進。

活動の概要

- ◇水田に魚道を設置し、魚道観察会を6～9月に年20回開催。生協と協同開催の「生きもの観察会」には地域内外の子ども連れ家族が参加し、生物の多様性を学ぶ機会を提供。
- ◇手植えの田植え、鎌での稲刈り、足踏み脱穀機など、昔の農機具を使った農業体験を実施。
- ◇収穫祭では、農家の女性達の指導で、子供たちが育てた農産物を母親達が炊き出し。
- ◇水田で減農薬50%に取り組み収穫された米を「どじょっこ米」として販売。

活動の成果

- ◇生き物観察会等へ子どもから大人まで参加し、地域自然環境の素晴らしさが再認識され環境保全活動への理解が深まっている。
- ◇昔の農業体験を通じ、子どもたちへ農業や環境の大切さと地域や農業への理解が深まる。
- ◇地域農産物による炊き出や非常食の調理体験によって、地域農業への理解と地域住民同士の交流の広がり、防災活動の一環としての非常時連携にも寄与。
- ◇「どじょうの育み米」のブランド化による消費者との交流で地域農業の活性化が図られた。

問合せ先

〒444-1214 愛知県安城市榎前町北榎14番地1
TEL:0566-92-0071 FAX:0566-92-0071

④明治用水土地改良区

第4回選定

～「疏通千里・利澤萬世」いのちの水、明治用水～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験) ◆女性の活躍



管内小学生向けの水のかんきょう楽校実施



水源かん養林保全活動の実施



女性部による食育イベント実施

活動のきっかけ

1世紀以上前から、地域の発展の礎となっている明治用水をとおして「水」、「農」、「食」、「環境」について楽しんで学べる機会を提供し、次世代を担う子どもたちに農業用水の大切さなどを伝える教育活動を開始。

活動の概要

- ◇1世紀にわたる上流の水源林を守る活動や、水質の保全・監視を継続して実施。
- ◇水をテーマに、明治用水を通じて地域の歴史や農業・農村の役割、水源かん養林の働きを楽しく学べる「水のかんきょう楽校(学校)」を通年開催。
- ◇明治用水女性部を中心に、水・農・食・環境をテーマに親子体験イベントを開催。
- ◇地域住民とパートナーシップを図るため各種団体と連携し、桜鑑賞会、ホテルの放流、田植え、稲刈り、餅つき等のイベントを実施。水路の上部をサイクリングロードや遊歩道等に整備。

活動の成果

- ◇明治41年から続く造林事業で、水源かん養林を543ha所有、森林保全活動実習や体験に活用。
- ◇水を作り、水を守る活動の継続が地域の農業発展のみならず工業用水への利用等で地域の産業発展に大きく寄与。
- ◇体験プログラムやイベントには年間2,000人を超える参加者があり、食育や環境学習に貢献。
- ◇地域住民や各種団体との連携した活動や遊歩道等の整備などの地域貢献を継続することで、明治用水が地域の重要な財産として伝承。

問合せ先

〒446-0065 愛知県安城市大東町22-6 (総務課)
TEL:0566-76-6241(代表) FAX:0566-75-7944

⑤有限会社デイリーファーム

～安全・安心・おいしい卵 6次産業化でPR～

◆「食」の提供・活用 ◆6次産業化 ◆地産地消



ココテラス外観



耕畜連携・食育などの地域交流



自社のたまごをつかったシフォンケーキとカステラ

活動のきっかけ

「安心・安全」「地域農業の振興」を掲げ、付加価値の高い「あいちの米たまご」を生産してきたが、うまく消費者に認知してもらえないことが課題であった。そこで卵の良さや、生産への思いなどが伝わるよう、平成27年から加工品販売と生みたて卵の直売事業を始める。

活動の概要

- ◇たまごの品質の高さを知ってもらうため、洋菓子店「ココテラス」を平成27年にオープンし、たまごのうま味を全面に出した味わいのカステラ、プリン、新鮮な生卵等を販売。
- ◇イチゴ生産農家と連携し、新商品「いちごのロールケーキ」を開発・販売。
- ◇地域の稲作農家を後押しするため、自社のケイフンで作ったたい肥を提供し、飼料米を生産してもらうことで、循環型農業を実践。
- ◇食育の取組として、農場見学や契約米農家のほ場見学、ココテラスの試食会も兼ねた消費者との交流会を実施。

活動の成果

- ◇ココテラスが開店して、予想を上回る年間約10万人が来店。現在、社員3名、パート16名で運営し、地元の雇用にも貢献。
- ◇イチゴ生産農家からは、傷みの早いイチゴの安定した販売先が確保できたと喜ばれている。
- ◇ココテラスでの販売を通じて当社たまごの認知度が上がり、加工品の生産はもちろん、たまご生産農場でも社員のやりがいにつながっている。

問合せ先

〒479-0806 愛知県常滑市大谷字芦狭間5番地
TEL:0569-37-0072 FAX:0569-37-0256

⑥宮田用水土地改良区

～「田んぼもみんなの大切な教室！」小学生への環境学習会～

◆子ども(教育・体験)



出前授業(座学)を開催



タモ網を使った生きもの調査



水路の流速調査

活動のきっかけ

『田んぼの生きもの調査』を平成15年に管内小学校と一緒に実施したことを契機に毎年実施。平成21年に田んぼの生きもの調査が廃止後、平成22年からは農業や環境に対する意識を子供たちにもってもらうため、土地改良区独自の取り組みとして継続して実施している。

活動の概要

◇本土地改良区管内の小学生を対象に、農業農村が持っている農産物の生産だけではない『多面的機能』や、用水路や田んぼがあることで保たれている『生物の多様性』について理解を深めてもらうため、実施場所に合わせて、スライドとクイズ形式の『出前授業』や、身近にある田んぼや農業用排水路などにどれだけの生物が生息しているかを、実際に子供たち自らがタモ網等で捕って同定する『環境学習会(野外授業)』を組み合わせた取り組みを実施している。

活動の成果

◇小学4年生を対象にしているため、配布したパンフレット・生きものを記載した下敷き、出前授業や生きもの調査などから、家族間でのコミュニケーションにおいて土地改良区等の役割や必要性などが少しずつ浸透している。

◇身近な生物やそれを育む農業・農村の多面的な機能などまったく知らない小学生もいるが、環境学習会を実施することで理解が深められ、子供の豊かな感情や地域に対する愛着が醸成されている。

問合せ先

〒492-8211 愛知県稲沢市稲沢町北山178

TEL:0587-32-4151 FAX:0587-21-7027

⑦つくでスマイル推進協議会

～ 地域再生「思い出のあの場所にもう一度命を」～

◆ジビエ ◆「食」の提供・活用 ◆女性の活躍



旧菅守小学校跡地全景



つくで田舎レストランすがもり



ピザ作り体験

活動のきっかけ

平成25年3月末に小学校統廃合により、地域コミュニティーの中心であった菅守小学校が閉校。地域が疲弊し、地域コミュニティーの減退を懸念する住民の声がかきかけとなり、平成26年4月に廃校を交流拠点として地域活動組織として発足。

活動の概要

- ◇学校給食の調理員の経験を持つ女性が3名が、廃校となった小学校のランチルームを利用して週末営業の農家レストラン「つくで田舎レストラン・すがもり」を平成26年にオープン。
- ◇施設周辺全体を里山博物館と見立て、木工体験、ピザ体験、森林観察会、ノルディックウォーキング、炭焼き体験など各種体験を実施イベントを開催。
- ◇地域の小さな話題を地域住民47名(16歳～67歳)が自らライターとなって発信するサイト「つくでスマイル」を立上げ情報を発信。

活動の成果

- ◇農家レストランでは、地域おこし協力隊の女性と協力してメニューを開発、ジビエを利用した鹿肉のハンバーグ、特産のトマト、自然薯、川魚のアマゴなど地域食材を使用した健康・安全・安心な食を提供し、平成28年は約3,600人が利用し地域を活性化に寄与。
- ◇平成28年に道の駅「つくで手作り村」に軽食店「スマイルカフェ」を開店、年間約2,000人が利用。
- ◇各種体験イベントの開催により、都市住民との交流が活性化。
- ◇平成29年より、地元で採れたハウレンソウを乾燥し、粉末にした商品の開発に取り組む。

問合せ先

〒441-1423 愛知県新城市作手高里字縄手上28-1
TEL:0536-37-2269 FAX:0536-37-2284

⑧鞍掛山麓千枚田保存会

～ 湧水・天日干し、生きものと共生した体に優しい米作りの実践 ～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験)◆企業



四谷の千枚田



収穫感謝祭 餅つき



新東名定期バス(ラッピングバス)

活動のきっかけ

かつては、1296枚の棚田が耕作されていたが、耕作放棄地が拡大、平成3年には373枚まで減少したため、「地域の宝」である棚田の存続を危惧する地元住民らが平成9年に鞍掛山麓千枚田保存会を設立。

活動の概要

- ◇自然豊かな景観と生物多様性に富んだ「四谷の千枚田」の自然・景観の保全活動を実施。
- ◇棚田での稲作を通じた農業体験学習や自然観察会等を地域が一体となって実施。
- ◇お田植えのタベ、収穫感謝祭、稲作体験等各種イベントの開催で都市と農村の交流を実施。
- ◇企業の社員研修やボランティアを受け入れ、生物多様性調査の実施やビオトープを設置。

活動の成果

- ◇棚田の保全活動やPR活動により来訪者が増え、農作業道路やふれあい広場などの周辺整備が進み、癒やしを求める都市部からの来訪者が平成27年には年間25,000人に増加。
- ◇「四谷の千枚田」を新たな地域の中核として位置づけ、地域住民が各種活動を協働で実施し、地域を活性化。
- ◇美しい景観を持つ「四谷の千枚田」が多言語観光パンフレット等の各種資料に採用され、マスコミ等にも評価されるなど、知名度が向上。全国各地から視察や講師依頼があり活動を紹介している。
- ◇生産性に乏しい当地では、災害・飢饉に備え備蓄していた、備蓄米(古米)を地元製菓会社で加工し、地域特産品「千枚田五平餅」として宅配便や道の駅で販売。

問合せ先

〒441-1942 愛知県新城市四谷59

TEL:0536-35-0747 FAX:0536-35-0747

⑨愛知用水土地改良区

～ 受益地域と水源地域の交流イベント「愛知用水と水源の森」～

◆子ども(教育・体験)



職員が講師を務める愛知用水青空教室



どんぐりの棒パン焼き



愛知用水・水源涵養に関するパネル展

活動のきっかけ

「愛知用水」は、昭和36年以来、半世紀の永きに亘り広大な農地を潤してきた。用水を管理している愛知用土地改良区を中心に、先人たちが築き上げた水の恩恵に感謝を込めて、水源地域と受益地域の交流を深めてきた。用水の重要性や水源地への感謝を再認識し、「水の絆」を後世へつなげていくため、JAあぐりタウン「げんきの郷」を訪れる来場者に対して交流イベントを平成21年から開催。

活動の概要

◇「げんきの郷」に愛知用水や水源涵養林の重要性を展示・交流するため10のブースを設置。
◇一般来場者に対して、愛知用水の歴史を紙芝居を用いて説明する青空教室、水源地の木材を活用した木工教室、水源地のどんぐりを使った棒パン焼き、ため池や水路に棲む生き物の観察などの体験教室及び、水源地域や受益地域の特産品の販売及び観光PRなどを実施。

活動の成果

◇毎年400人程度が参加しており、平成28年度のアンケートでは「水源地の役割や農業用水への役割について理解できた。」との回答が約90%と高く、「愛知用水」の重要性について広く一般への理解が広まりつつある。

問合せ先

〒474-0025 愛知県大府市中央町三丁目6番地の1(総務部総務課)
TEL:0562-44-4800 FAX:0562-44-4801

⑩ JA 青年部

～ 朝採り新鮮大府野菜を消費者へお届け ～

◆「食」の提供・活用 ◆地産地消 ◆都市農業



地産地消マルシェ@大府駅前の様子



地産地消マルシェ@大府駅前



地産地消マルシェ@大府駅前

活動のきっかけ

JA青年部員が、自ら育てた安心・安全な農産物を直接対面販売したいという希望を市が受けて、大府駅前にマルシェを開催。

活動の概要

◇毎月第4日曜日の9:00～12:00に大府駅前にて地産地消@マルシェを開催。

◇平成28年7月25日～地産地消マルシェ@大府駅前を開催。

活動の成果

◇1回当たり約6～7万円程度の売上があり、JA青年部の活性化を図ることができている。

◇商工会議所が同日に大府駅前で物品販売を行っており、相乗効果で大府駅前の活気につながっている。

問合せ先

〒474-8701 愛知県大府市中央町五丁目70番地(大府市農政課)

TEL:0562-45-6225

⑪ベジエール渥美

～ 渥美半島田原市の野菜・果物の応援隊 ～

◆子ども(教育・体験) ◆地産地消 ◆女性の活躍



商業施設での田原市産農産物PR



保育園での食育活動



テレビ取材で野菜をPR

活動のきっかけ

農業産出額日本一の「渥美半島」田原市において、市の呼びかけで様々な職業の20代～70代のジュニア野菜ソムリエ講座修了生48名が中心となり、田原市産農畜産物の魅力のPRや農業を盛り上げるため平成26年に組織を設立。

活動の概要

- ◇野菜ソムリエの資格を持つ会員48名(うち女性38名)で組織され、企画部会、食育部会、レシピ部会を構成し、野菜ソムリエとしての知識を活用して田原市産の野菜・果物をPR。
- ◇市内外のイベントに参加して地元農畜産物のPRや、保育園児や小中学生の年齢に合わせた分かりやすい内容で食育活動を行い、子どもの野菜嫌いの克服や消費拡大に取り組む。
- ◇田原市の農畜産物を使用したレシピの開発、広報誌等でレシピ紹介、テレビ取材やイベント等を積極的に活用することで、家庭での田原市産農畜産物の活用を提案。

活動の成果

- ◇食育講座の参加者が年間約1,040人(H28)となり、講師依頼が年々増加するとともに、アンケートでは「子どもが野菜を進んで食べるようになった。」という回答が多数。
- ◇タウン誌での巻頭特集記事やテレビ取材で団体としての知名度が上がり、田原市のPRにも貢献。
- ◇タウン誌と広報誌の連載で田原市産農畜産物を使用したレシピを紹介。市と協力して地元の旬の野菜・果物を使ったレシピ本を作成するなど「地産地消」の推進に貢献。

問合せ先

〒441-3421 愛知県田原市田原町南番場30-1(田原市産業振興部農政課内)
TEL:0531-23-3517 FAX:0531-22-3817

⑫鍋田土地改良区

～ 海拔0m地帯の農業農村を守る ～

◆子ども(教育・体験) ◆都市農業



排水機場現地学習会で小学生に説明



排水機場内部でお絵かき大会



土地改良区クイズの当選者表彰

活動のきっかけ

鍋田土地改良区管内は、すべて海拔ゼロメートル以下の自然排水ができない地域で、本土地改良区がその排水管理を担っているが、その重要性を広く知ってもらうための活動として、平成23年から地元の小学4年生を対象に排水機場の現地学習会を開始。

活動の概要

◇毎年、海拔ゼロメートル以下という地域の特性と排水施設の重要性を理解してもらうことを目的に、管内にある2つの小学校で、4年生を対象に排水機場現地学習会を実施。

◇当地域で生産される米は、愛知県内で最も早い出荷のため、8月中旬の初出荷式は度々ニュース等で報道されており、そのイベント会場で本土地改良区のブースを設け、土地改良関係のパネル展示や土地改良区クイズの実施等により土地改良施設の重要性をPR。

活動の成果

◇小学4年生を対象とした現地学習会では、毎年50人前後の参加があり、海拔ゼロメートル以下の当地域における排水の重要性や土地改良区の役割を広く知ってもらい、地域での土地改良施設への意識向上につながっている。

◇異常気象による局地的集中豪雨の頻発等に対する排水管理等、本土地改良区の管理する農業用施設の重要性を地域住民に理解してもらうことにもつながっている。

問合せ先

〒498-0048 愛知県弥富市稲吉一丁目31番地

TEL:0567-68-8204 FAX:0567-68-4301

⑬美浜町都市農村交流協議会

～ 交通網がとても充実した便利な田舎 ～

◆自然・景観 ◆教育 ◆農林漁業体験



イチゴ狩り体験の様子



地引網体験の様子



my干物作り体験の様子

活動のきっかけ

後継者不足、農産物価格の低迷など厳しい状況の中、平成12年10月に「魅力発見あいちの農村」事業を実施したことをきっかけに、美しい自然に恵まれた地域資源を有効活用し、都市と農村の交流を図り、地域の活性化を目指して平成13年4月美浜町都市農村交流協議会を組織。

活動の概要

- ◇イチゴ狩りとイチゴジャム作り体験等のグリーン・ツーリズム。地引網体験、イルカ記念撮影、貝殻フォトフレーム作り、干物作り体験等のブルー・ツーリズムを実施。
- ◇美浜町での農業・漁業体験プログラムの開発やブラッシュアップを図るとともに、町内の観光資源や特産品を組み合わせた日帰り体験ツアーの開発や実施。
- ◇平成28年度には、漫画家鳥山明先生が監修した「ぐるぐるOISHIIマスタープロジェクト」の冊子を作成し、町内の小学生全員に配布する他、町内の農業・漁業体験が可能な施設で無料配布。

活動の成果

- ◇平成28年には体験ツアーに約200名が参加し、参加者からは「楽しかった。また美浜町にきたい。」等の意見をいただいております。体験ツアーを通じて農林漁業への理解や美浜町の良さが伝わり、体験以外にも来訪する機会の創出につながった。
- ◇作成した漫画冊子は、子供でも親しみやすく、大人にも興味を持ってもらえるような内容となった。
- ◇パッケージ化されたグリーン(ブルー)・ツーリズムの開発で、町内地域資源・施設を効果的に活用でき充実した内容のグリーン(ブルー)・ツーリズムの実施が可能となった。

問合せ先

〒470-2492 愛知県知多郡美浜町大字河和字北田面106番地(美浜町産業振興課)
TEL:0569-82-1111 FAX:0569-82-5423

⑭奥三河つぐ高原グリーンツーリズム推進協議会

～ 奥三河高原ジビエのブランド化を目指して～

◆ジビエ ◆「食」の提供・活用



奥三河つぐ高原マルシェ会場



ジビエの森でのイノシシ肉解体



「食育Dining in つぐ高原」

活動のきっかけ

人口減少と高齢化に伴い地域活力が低下したため、地域の豊かな自然や食を観光や教育等に活用し、都市と農村との交流促進、地域活性化と地域コミュニティ再生を目的として、平成25年に協議会を設立。

活動の概要

- ◇地域の食と文化を紹介するイベント「奥三河つぐ高原マルシェ」を平成25年10月から毎年開催。
- ◇農作物に被害をもたらすため捕獲される猪や鹿を地域資源としてとらえ、ジビエの活用と安定供給に向けた施設「奥三河高原ジビエの森」を整備し、道の駅「もつくる新城」のレストランや地元飲食店、宿泊施設に供給。
- ◇奥三河高原ジビエのブランド化に向けて新たな販路開拓や地域特産品としての加工品を開発。
- ◇地元の小学生親子を対象に、地元野菜やジビエを使った料理教室「食育Dining in つぐ高原」を開催。

活動の成果

- ◇「奥三河つぐ高原マルシェ」は、平成28年には奥三河地域から21店の出店、約1,500人の来場者があり、地域のイベントとして定着、都市と農村の交流を促進に大きく寄与。
- ◇ジビエ処理加工施設「奥三河高原ジビエの森」の整備で、ジビエ販売という新しい産業を創出。
- ◇「奥三河つぐ高原マルシェ」や「奥三河高原ジビエの森」がマスコミに取り上げられ、地域PRに貢献。

問合せ先

〒441-2601 愛知県北設楽郡設楽町津具字下川原6番地1(津具商工会)

TEL:0536-83-2114 FAX:0536-83-2335

①株式会社いのさん農園

～ 紫宝の果実が都市と農山村・世界をつなぐ ～

◆国内観光 ◆6次産業化 ◆輸出



いのさん農園ブルーベリー観光農園



いのさん農園いちご観光農園



ブルーベリー狩りをしている様子

活動のきっかけ

温泉施設の誘客の一環として、誰もが楽しめるバリアフリーの観光農園を運営する(株)いのさん農園を設立。ポット栽培可能で健康につながるような農産物という視点からブルーベリーによる観光農園の経営を開始。夏期以外にも観光農園で楽しめるようイチゴも導入。

活動の概要

- ◇ブルーベリー観光農園の来場者から一年中いのさん農園のブルーベリーを食べたいと要望があり、6次産業化の総合化事業計画の認定を取得しジャム、ジュース等の商品を開発・販売。
- ◇車いすの方など誰もが楽しめるよう、アスファルト舗装面で、ポット栽培のブルーベリーの観光農園を運営、また夏季以外にも収穫できるイチゴ観光農園も運営。
- ◇猪の倉温泉や近畿日本鉄道(婚活等)、近隣のゴルフ場(婚活等)や宿泊施設と提携し、津市内を回るプランの提案や、冊子によるPR等により、滞在日数を伸ばす取組を実施。
- ◇2015年から生鮮品やジャム等の加工品を、台湾、香港、シンガポール、マレーシアに輸出。

活動の成果

- ◇猪の倉温泉、ブルーベリー、イチゴ園への誘客はリピーター客とその口コミによって、集客につながっている。加えて周辺の白山地域への県外、国外からの来客増加に寄与。
- ◇百貨店やホテル等で美味しさを知ったユーザーからジャム等のお中元利用が増加。
- ◇開発した6次産業化商品を取り扱う販売店が順調に増えて販売数も増加。
- ◇輸出商品を通じて、ブルーベリー観光農園やイチゴ観光農園に国外から来場。

問合せ先

〒515-2622 三重県津市白山町中ノ村148
TEL:059-264-0550 FAX:059-262-4364

②認定特定非営利活動法人森林（もり）の風

～「まちのきこり人養成講座」～

◆自然・景観 ◆鳥獣被害防止



外部講師を招いて共に勉強会。レベルアップ講習会



間伐材の有効活用。搬出勉強会



地域の親子体験も活動の一つ

活動のきっかけ

水源の森保全活動は、全国的に広がっているが、森林整備の技術不足、境界確定、各種法律、林業のルール等を知らないために、地域とボランティア活動で多くのトラブルが発生。地域の再生には、安全な作業方法とマナールールを守る事が重要との判断で講座をスタートした。

活動の概要

- ◇「まちのきこり人育成講座」の実施。(基礎編)は安全な作業とマナールールを指導、年間8日間を受講。
- ◇レベルアップ講習会(応用編)の開催。一步上の技術及び知識習得の講習会。外部から専門家を招き、会員も共に勉強する年6回以上予定。依頼講習会(入門編)随時実施。
- ◇小学校の森林環境教育など企画運営。
- ◇企業のCSR活動における水源の森保全事業の推進(三重県で現在10カ所、3カ所準備中)。

活動の成果

- ◇「まちのきこり人育成講座」は、13年目を迎え、終了者は180人を超える。他府県からの受講者(愛知、神奈川、埼玉など)も増加。行政からの依頼もあり、他市町村でも開講。
- ◇活動する企業には、費用と年1回～2回の森林保全活動参加、会として安全指導及び森林勉強会の開催、地域の森林を守るための人材育成及び都市部の企業及び興味のある人を“森林の守り人”に育て地域活性をする。会として年間10ha程度の森林整備を進めている。

ホームページアドレス：<http://www.morinokaze.info/>

問合せ先

〒512-0933 三重県四日市市三滝台4丁目15番地7
TEL:059-321-7719

③横輪町活性化委員会

～ 地域活性化に、じいやん・ばあやん大活躍！ ～

◆国内観光 ◆6次産業化 ◆高齢者の活躍



横輪いものPRにも高齢者が活躍



ガイドツアーに高齢者が活躍



横輪いも生産に
高齢者が活躍

高齢者の知恵で「横輪
いもかるかん」を試作

活動のきっかけ

町存続の危機感から、78回もの会合を重ね「横輪町活性化計画」を作成。「地域資源の活用と交流・連携」をテーマに、地域経営の視点のもと、平成18年から交流人口の増加による活性化の活動を開始。

活動の概要

- ◇「横輪桜」や冬季に激しく吹き抜ける強風から家屋を守るために発達した石垣の景観、特産の「横輪いも(山芋)」などの地域資源を活用した横輪ブランドを創出。
- ◇多様な団体との連携による「横輪桜まつり」等のイベントやガイドツアーに取り組み、また環境省の「子どもパークレンジャー」事業等を活用して交流人口の増加に取り組む。
- ◇平成25年に三重県、伊勢市、イオンリテール(株)と共に「伊勢の横輪いも推進協議会」を設立し、横輪いもの安定供給、6次産業化に取り組む。

活動の成果

- ◇横輪いもの生産、ガイドツアーや子どもパークレンジャーの案内や指導を担当するなど、高齢者の積極的な活躍により、地域の高齢者の表情が明るく健康にも寄与。
- ◇横輪芋は、栽培の難しさや獣害など大きな課題を、伊勢の横輪いも推進協議会構成員の連携と生産者の地道な努力により解消し、販路の確保や商品開発などの取組が進んだ。
- ◇観光面では、従来の情報発信など待ちの誘客事業から、横輪芋の収穫体験など地域資源を活用したメニュー及び観光商品の開発、旅行会社との連携など攻めの誘客の仕組みを構築。

問合せ先

〒516-1106 三重県伊勢市横輪町586番地
TEL:0596-39-1741 FAX:0596-39-1741

④伊勢寺地域環境保全向上活動をする会

～ 農用地の保全向上と農村景観の形成 ～

◆自然・景観 ◆子ども ◆鳥獣被害防止



県道沿いに栽培した向日葵



児童・園児のオタマジャクシ観察会



防護柵設置共同作業

ため池外来魚駆除活動

活動のきっかけ

農道・用排水路等農業用施設の老朽化により、施設の修繕が課題となり、また獣害が深刻な状況となって営農を放棄する農地も増加し、平成19年4月に農地・農業用施設の保全に地域が一体となって取り組む「伊勢寺地域環境保全向上活動をする会」を設立。

活動の概要

- ◇共同作業による農道、用排水路等施設の軽微な補修や管理、地域内の清掃活動を実施。
- ◇小学校、幼稚園と連携、菜の花・コスモス観賞会、オタマジャクシ・ホタル観察会等を実施。
- ◇県道沿いの休耕田を活用し、菜の花、向日葵、コスモス、芝桜の植栽、農道に水仙を植栽。
- ◇5箇所のため池の外来魚駆除活動を実施。
- ◇獣害対策として、防護柵、電気柵の設置及び維持管理、捕獲活動を実施。
- ◇会報を発行し、活動状況等について地域住民に周知すると共に市外にも発信。

活動の成果

- ◇共同作業により農業用施設の長寿命化が図られると共に地域内の環境美化に寄与。
- ◇学校との連携により、地域の自然の豊かさを認識し地域を大切に思う教育の場を提供。
- ◇県道沿いの休耕田を活用し花を栽培することで、道行く人に対して憩いの場を提供。
- ◇ため池の外来魚駆除活動を行った結果、平成26年度以降外来魚の生息は確認されず。
- ◇ため池等の農業用用水を活用した防災訓練等を実施し、地域住民の防災意識が高揚。
- ◇会報を発行し、活動状況を市内外へ広報・PRしたことで当会への視察団が来訪。

問合せ先

〒515-0845 三重県松阪市伊勢寺町2005-1

TEL:0598-58-2295 FAX:0598-58-2295

⑤株式会社松阪協働ファーム

～いま400年の歴史が蘇る、松阪赤菜の復活!～

◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化 ◆女性の活躍



松阪赤菜収穫体験の様子



松阪赤菜生産者とおにぎり作り



昔ながらの大豆収穫体験

活動のきっかけ

地域の農産物を給食の食材として届けていた学校より、農業体験が行いたいとの要望を受け、直売所の生産者組織と協働して、平成24年から毎年作物のテーマを決めて食農体験を開始。

活動の概要

- ◇平成25年と26年は大豆、平成27年度はさつま芋、平成28年度は松阪赤菜をテーマに教育ファームを実施。
- ◇農家と連携し、さつま芋の苗を配布し生産した芋は直売所で焼き芋として販売したり、規格外品はゼラートやスイーツの原材料として商品化。
- ◇地元の伝統野菜である松阪赤菜は、主に漬け物の原材料として栽培されいたが、生産拡大を目指し、様々なレシピの開発や漬け物以外の惣菜として加工し販売。

活動の成果

- ◇松阪赤菜は直売所に惣菜の活動拠点(店舗)が出来たこと、マスコミの取材や伊勢志摩サミットの食材として紹介されたことで一躍注目を浴びる。
- ◇松阪市原産地呼称管理制度(第1号)の認定を受け、首都圏の量販店や飲食店でも採用され、様々な料理にも活用の輪が広がったことから生産農家も数戸から平成28年には25戸に増加。
- ◇松阪赤菜関連商品は、漬け物中心の平成27年度は年間約100万円だったが、惣菜加工を始めたことで平成28年度は年間約500万円に増加。
- ◇教育ファームの認知度は年々高まり、平成28年度は約300人が参加。

問合せ先

〒515-0845 三重県松阪市伊勢寺町551-3
TEL:0598-63-0050 FAX:0598-58-3712

⑥一般社団法人ひびき

～ 未利用農地を障がい者活躍の場に！ ～

◆医療・福祉 ◆都市農業 ◆その他(耕作放棄地の解消)



ストックの収穫作業



ポットへの土入れ作業



幼稚園児との交流(サツマイモ掘り)

活動のきっかけ

理事の一人が平成12年に自動車部品加工を行う就労継続支援A型事業所を開設したが、加工作業の苦手な障がい者も見られたため農作業部門に着目し、平成26年にB型事業所を開設。近隣の農家から耕作放棄地を借りて露地野菜を栽培するほか、地域の小中学生と農作業を通じた交流や、地域の方を対象に農業教室を開催している。

活動の概要

- ◇福祉農園の整備に取り組み、職員3名、利用者2名で耕作放棄地15aからスタート、農地管理の実績が評価されて農地を拡大、現在は職員9名、利用者17名で52aの農地を管理。
- ◇障がい者の自立支援に取り組み、元JA営農指導員や農芸高校の教員OBでジョブトレーナーの資格を持つ職員の助言を受けて、個々の利用者の特性に合った技術指導を行っている。
- ◇幼稚園児、小中生、高校生及び大学生の農作業体験を受け入れて農業の楽しさを感じていただくとともに、障がい者への理解を深めていただいている。

活動の成果

- ◇農業分野において、障がい者が出来る作業が実証でき、今後の取組の見通しが立った。また、耕作放棄地でのきちんとした営農が評価され、農地提供の申し出が増加し地域活性化に貢献している。
- ◇幼稚園児や小中学校の生徒等が農業体験することで、食育と障がい者への理解が深まった。
- ◇事業所の利用者が農業技術を習得することで農作物の売り上げが増え、工賃が向上。その結果働く意欲の向上と、園児・児童生徒等や近隣の人と一緒に農作業を行う中で社会性が向上した。

問合せ先

〒510-0304 三重県鈴鹿市郡山町1804番地の1

TEL:059-389-6833 FAX:059-389-6834

⑦株式会社椿茶園

～ 茶産地で茶農家が淹れる本格的日本茶カフェ ～

◆「食」の提供・活用 ◆6次産業化 ◆地産地消



店舗外観



お茶バーカウンター



急須で丁寧に
お茶をいれる



お茶収穫風景

活動のきっかけ

茶の消費低迷及び市場価格の低迷に、茶に更なる付加価値をつけた商品を開発・提供して経営の多角化及び付加価値化を図るため、鈴鹿山麓にある自園で栽培した茶葉を産地直販として生活必需品であるお茶の販売を行う。加えて、お客さんの目の前で、急須で丁寧に淹れるカフェを営業し、新たな客層、年代層の人たちへ向けて、茶の消費の拡大を図る取組を開始。

活動の概要

◇参拝客の多い椿大神社の参道に茶の直販とカフェ業務の行える店舗をオープン。バーカウンターがあるカフェ店舗で、日本茶インストラクターが、来店者の目の前で淹れることで鮮度や美味しさを感じてもらい、付加価値をつけている。

◇直販では、生活必需品としての需要のほか、お土産としてのギフト商品や、パッケージやネーミングにこだわった商品の提案などで、新たな客層の人たちに消費拡大を目指す。

◇鈴鹿市茶業組合が主催する「鈴鹿のお茶のお話会」にて鈴鹿市の茶業と美味しいお茶の淹れ方を教えている。

活動の成果

◇日本茶カフェという珍しい店舗だが、時の経過とともに認知され、新茶の出来た5月からは茶産地で採れた新茶を味わってほしいと、カフェの来店者が増えている。

◇カフェで飲んだお茶が美味しいと商品を買いたい来店者が増えた。特に若い方がお茶を買っていただけるのがとても嬉しい。

問合せ先

〒519-0315 三重県鈴鹿市山本町1795-1

TEL:059-371-1845 FAX:059-371-2344

⑧農事組合法人鈴鹿山麓NATURE

東海農政局選定

～女性が安心して、働きやすい職場～

◆女性の活躍 ◆高齢者の活躍 ◆その他(カラフル野菜の生産、販売)



マザーズライフサポーターのお母さんの作業風景



ボーイスカウトの農業体験



こども環境フェア

活動のきっかけ

高齢化や後継者不足により耕作放棄地が増えている中で、女性だけでも農業を続けていけないかと地域の主婦仲間に声掛けしてミニ野菜やカラフルな野菜などの多品種栽培を始める。

活動の概要

- ◇平成16年から野菜の直売に取り組み、作業負担の少ないミニ野菜やカラフルな野菜を栽培し、レストラン86社と個人宅配顧客200軒へ直売。
- ◇ホームページの開設による販売の増加、スタッフの増加により平成26年に農事組合法人設立。
- ◇ワークライフバランスを重視し「家庭が第一」の方針の下、無理のないフレキシブルな勤務体制を整備し、若いお母さんの働く一歩を踏み出すために働きやすい環境を提供。
- ◇地元中学校の職場体験や研修生の受入れを実施。
- ◇障がい者、高齢者、外国人も積極的に雇用し、スタッフとして一緒に作業に取り組む。

活動の成果

- ◇取引先のシェフの要望に応じて栽培品目を拡大、現在500種類の安全で良質な野菜を提供。
- ◇体への作業負担がかからない軽量の作物を栽培するとともに、無理のない勤務を推奨し、業務内容や作業場を工夫し、幼児がいる母親達、障がい者、高齢者に雇用の機会を提供。
- ◇学生や障がい者、母親達に体験の場を設けることで、多くの人に農業と食の大切さを認知。

問合せ先

〒519-0323 三重県鈴鹿市伊船町2704-2
TEL:059-371-0414 FAX:059-371-0514

◎特定非営利活動法人天満浦百人会

～ やるき・本気・元気で地域活性化に取り組む ～

◆「食」の提供・活用 ◆子ども(教育・体験) ◆高齢者の活躍



地域の交流の場としての活動



おわせおひなさま祭り 天満荘会場



ある日のカフェのメニュー

活動のきっかけ

平成12年に過疎・高齢化が進んだ地域に活気を取り戻そうと「天満をどうにかしようらい！」を合言葉に天満浦百人会を結成し、おもてなし中心に活動。平成19年、夢古道おわせレストランへの出店を機に法人化。平成22年からは古民家「天満荘」でのカフェ経営を中心に活動。

活動の概要

- ◇本物の尾鷲の味を伝えたい、そんな思いから出前授業を実施。(魚食の普及や地産地消)
- ◇作り手のなくなったみかん山を借り受けて栽培し、甘夏みかんの消費拡大と有効利用としてジュース作りを提案。幼稚園児・小学生とその保護者にジュース作り体験などを実施。
- ◇レストラン経験を活かし、さんま寿司、押し寿司体験等の出前授業を水産高校、三重大学と実施。
- ◇平成21年に取り壊すことになっていた古民家「天満荘」を買い取り、70歳前後のスタッフでカフェを運営し、地域の人々が集まる憩いの場となっている。

活動の成果

- ◇天満荘の修理費を募金活動によりまかなうなど市内外の若者との交流が活発。災害時の避難場所としての役割が地域への大きな貢献、安全・安心のまちづくりの実現に向かう。
- ◇三重大学のサテライトとして産業振興学舎に指定され、産学連携による甘夏みかん山への支援や、ジュース、マーマレードづくりなどを通して若者との交流が進み活性化に大きく貢献。
- ◇常に自立を心がけ、賑わいの創出に一丸となって努力し高齢者の生きがい作りと成長に寄与。

問合せ先

〒519-3602 三重県尾鷲市天満浦161番地
TEL:0597-22-7880 FAX:0597-22-7880

⑩ 亀山Kisekiの会

～ 幻のべにほまれ紅茶が地域の好循環を創る！ ～

◆ 伝統・継承 ◆ 6次産業化 ◆ その他(企業CSR、地元NPO・高校との連携)



市民、亀山高校生、NPOによる手摘み



べにほまれ荒廃茶園の再生活動



東名阪PAでKisekiの紅茶販売

活動のきっかけ

戦後賞賛された亀山産べにほまれ紅茶は衰退しは歴史に埋もれていた。紅茶製造スキルの復活・継承を目指して亀山べにほまれ紅茶復活プロジェクトを立ち上げ、平成25年2月に茶業者5名で亀山Kisekiの会を設立し、多様なパートナーとの連携・支援のもと紅茶の生産を再開。

活動の概要

- ◇ 市内で確認されたべにほまれ荒廃園30aをNEXCO中日本のCSR活動と連携し、茶園を再生。会員も自ら苗をつくり緑茶園をべにほまれに改植し紅茶園の再生・確保。
- ◇ 会員が専門家の指導で紅茶製造スキルを修得、各自の茶葉を原料に亀山紅茶を生産・販売。
- ◇ 再生べにほまれ園から『Kisekiの紅茶』ブランド創出と市内飲食店との連携。
- ◇ 復活したべにほまれ紅茶のなかで高品質なものを『Kisekiの紅茶』としてブランド化。亀山に來ないと買えない、飲めない紅茶として、市内の飲食店・茶補のみで提供。
- ◇ 平成26年から発達障害児を支援するNPO法人ぽっかぽかの会と連携し、手摘みの高級紅茶をKisekiプレミアム『天使のしずく』として商品化。販売収益全てをNPOに寄付し活動を支援。

活動の成果

- ◇ べにほまれ紅茶園の再生・確保と途絶えていた紅茶製造技術の復活とスキルの継承。
- ◇ 亀山産べにほまれ紅茶『Kisekiの紅茶』を復活、市内限定の販売で地元への経済貢献。
- ◇ 第一回、第二回の国産紅茶グランプリ連続入賞でべにほまれ紅茶の高品質をアピール。
- ◇ 市民や亀山高校生、地元NPOの社会貢献活動を支援する仕組みを構築。

問合せ先

〒519-0221 三重県亀山市辺法寺町1011
TEL:0595-85-0524 FAX:0595-85-0524

⑪有限会社藤原ファーム

～ 餅加工と田舎体験で過疎集落の農地を守る ～

◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化 ◆高齢者の活躍



そば打ち体験も田舎の思い出に



「えぼし」での商品説明と紹介



大人も子供も田植えを楽しむ

活動のきっかけ

地域の農業を守るために特定農業法人として平成8年に藤原ファームを設立。集落営農を継続するため、平成12年から加工・販売による収益の向上に取り組み、生産したもち米で草餅などの和菓子の加工・販売を開始。さらに、地域の魅力発信、グリーンツーリズムを開始するために地域の方々と連携し平成14年に「ほうすけクラブ」を設立。

活動の概要

- ◇6次産業化の先駆けとして、草餅、かき餅、大福など和菓子を製造し、直売所「えぼし」のほか、ホームページ、通販、県外の小売店で提供。
- ◇地域の方々が講師となり、田植え、稲刈り、エコツアー(自然の素材を使った工作)などの体験や、流しそうめん、餅つき、そば打ちなどの観光コンテンツを提供。
- ◇イベント以外でも訪問者に楽しんでもらえるように、遊歩道の整備、梟が住む森づくり、ビオトープの整備など地域の自然環境の保全に取り組む。

活動の成果

- ◇平成16年度の毎日新聞のグリーンツーリズム大賞や平成18年度の「三重県の食腕自慢」優秀賞の受賞などがきっかけとなり、知名度が向上し来客数、売り上げも向上。
- ◇収益の向上により、地域の農地を守ることにつながるとともに新たな雇用にも寄与。
- ◇ほうすけクラブでの取組は、地域のファンを創りピーターの増加にもつながっている。

問合せ先

〒511-0521 三重県いなべ市藤原町古田1162
TEL:0594-46-2144 FAX:0594-46-2144

⑫一般社団法人大山田農林業公社

～ 子どもから大人まで楽しく農業を学べる「そうぞの村」～

◆「食」の提供・活用 ◆6次産業化 ◆地産地消



花の見ごろを迎えた菜の花畑



汎用コンバインで、菜種を刈り取る



農産物加工所で梅干しをつける

活動のきっかけ

少子高齢化と都市部への若者の移住が進む中、耕作が出来なくなった土地や休耕田の活用が課題となっていた。その中で、平成7年に旧大山田村において、森林や農地の保全、農業経営の合理化を図ろうと団体を設立し、農林業の経済的・社会的地位向上を目指している。

活動の概要

- ◇農地の利用を集積し円滑化させるため、農地の「利用権設定」を行い、担い手農家の経営規模拡大、農地の集団化を行っている。延べ約170ヘクタールを、65戸の担い手農家に集約。
- ◇三重県工業研究所や地域農業改良普及センターなどの依頼を受け、白鳳梨やブドウのドライフルーツの商品化に取り組み、農業の振興や地域の活性化を図っている。
- ◇地域で収穫した農作物で、寿司や梅干し、味噌などの加工品を製造・販売している。
- ◇伊賀市菜の花プロジェクトへ参加し、休耕田や転作田を活用した菜種の栽培を始め、菜種油の製造販売、廃食油を使ったバイオディーゼルエンジン精製事業を実施。

活動の成果

- ◇農地保全管理事業では、新しい担い手が60戸を超え、休耕田の有効活用が進んでいる。
- ◇農産物加工所は、梅干しや味噌などが、売り切れになるほど人気商品となっている。
- ◇菜の花プロジェクトは、協力農家が40戸を越え、平成29年産は過去2番目の収穫量となった。
- ◇都市住民に農業に親しんでもらうためにはじめた「農業小学校」の取組では、活動を通じて就農につながるケースも出ている。

問合せ先

〒518-1422 三重県伊賀市平田103番地
TEL:0595-47-0151 FAX:0595-47-0244

⑬大野木環境保全会

～ 地域の農業・農村環境を子供達に繋げよう ～

◆自然・景観 ◆伝統・継承 ◆子ども(教育・体験)



用水管敷設工事を実施



薩摩芋の収穫体験



おひさまの会による草花の管理

活動のきっかけ

大野木集落では、農業用施設等が老朽化し、維持管理に支障を来していたため、これらの施設の維持補修や地域の活性化に向けた取り組みを行なおうと、自治会役員や営農組合役員、水利組合代表者が中心となり、平成20年6月に大野木環境保全会を設立。

活動の概要

- ◇水路の清掃や農道の路面の整備に加え、補修が必要な施設が増加し、集中的な共同補修作業の実施日を3日間計画し農家・非農家を問わず1日は参加。
- ◇集落の玄関口にあたる幹線道路添いの遊休農地対策で、年1～2回の大型草刈り機による除草作業を実施。また、老人クラブ会員の有志「おひさまの会」が草花の植栽・管理を実施。
- ◇地域の小学校、保育園と連携し、子供たちに伝統農法による米や、野菜づくりの体験学習を実施し、食や農業に関心を持ってもらい農業や農村への理解を深める活動を推進。

活動の成果

- ◇共同活動には農家・非農家問わず参加してもらうことで、施設は「自分たちで維持補修する」という意識と、集落の一体感が醸成されている。
- ◇地域内の遊休農地の減少と、清掃作業や施設の補修整備で集落環境が良くなり、また草花の植栽は道路を通行する人の目を楽しませ、参加者のやりがいにも繋がっている。
- ◇体験学習では指導者への礼状やイベントの招待状が届き、世代間交流にも繋がっている。

問合せ先

〒518-0033 三重県伊賀市大野木347

TEL:090-4400-1354

⑭ふるさとづくり上高尾の会

～ 都市と農村の交流で人が行き交う地域づくり ～

◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化 ◆その他(地域コミュニティの再構築)



空き家「二瀬屋」の改装、宿泊等施設に活用



蕪の灰汁を使った
蕪灰こんにゃく



農作業体験: 田植えと泥んこ遊び



京都大学学園祭へ出店

活動のきっかけ

上高尾地区では少子高齢化・過疎化に向け外部との交流を図る機運が高まり京阪神地区との交流会を実施。これを契機に有志団体「ふるさとづくり上高尾の会」を発足し活動を本格化。

活動の概要

- ◇平成21年の大阪の支援グループとの交流をきっかけに大阪及び近隣都市住民との農業体験等交流イベントを開催、平成28年度の延べ訪問者数は1,091名と年々増加している。
- ◇灰汁に稲わらを使用し地域資源を活かしたこだわりの「蕪灰こんにゃく」を25年から販売を始め、その後口コミで広がり、今では上高尾を代表する商品となった。
- ◇当会が参加する「上高尾地域づくり協議会」が分校を改修し交流施設を開設、週末レストランや体験教室等幅広い活動に活用している。地域住民の保養の場としても活用。
- ◇地域内の空き家を改修し、交流イベント参加者等の休憩・簡易宿泊場所として活用。

活動の成果

- ◇農業体験や交流施設を通じて都市と農村の交流が定着。
- ◇農産物の加工販売を契機に、女性参加が進み行動を起こす機運も高まり活動が活性化。
- ◇「自分たちでもできる農業」を合言葉に、「小さな農」の仕組みづくりに着手したことで耕作放棄地対策や移住・定住に向けた活動が進展
- ◇さまざまな活動は企画段階から自らが参画することで気持ちのこもったものになり、それゆえ自らが輝き、生きている実感を得られている。

問合せ先

〒518-0216 三重県伊賀市高尾4503

TEL:090-2184-7651

⑮田光資源と環境を守る会

～ 清流と光輝く田園と未来あるふるさと田光 ～

◆自然・景観 ◆子ども(教育・体験) ◆6次産業化



ため池の池干し



ソバの栽培



コスモス地域交流会

活動のきっかけ

平成3年度に転作田を活用したコスモス畑の共同維持活動を開始。

平成17年度には、「田光のシデコブシ及び湿地植物群落」が国の天然記念物に指定されたこと、加えて池干しを行った際、在来魚がほとんど生息していない状況に危機感を持ち、環境保全に対する機運が高まり、平成19年度に設立。

活動の概要

◇毎年約3haのコスモス畑を利用し、地域交流会を開催。地元食材を使った餅などをふるまったり、地元特産品を販売。

◇構成員である老人会によるシデコブシ群生地の環境整備や、地元小学校と連携した子ども農業体験や伝統文化の伝承、ため池の池干し・外来魚の駆除などを実施。

◇平成28年度からは、酒米「神の穂」の作付、平成29年度からは、「ソバ」の栽培を行い、新しい特産品開発に取り組む。

活動の成果

◇毎年10月に開催する「コスモス地域交流会」での参加人数が2,700人に増加。

◇ため池の池干しにより外来魚が駆除され、希少生物である「アブラボテ(タナゴの一種)」の生息環境の保全に寄与。

◇地元小学校が総合学習の一環で行う生物・生態系の観察会や農業体験を通じ、地域との絆が深まるとともに、後継者の育成と伝統文化の継承に寄与。

問合せ先

〒510-1324 三重県三重郡菰野町大字田光965

TEL:059-396-0314 FAX:059-396-2471

三重県玉城町

⑩ふるさと味工房アグリ (有限会社玉城アクトファーム)

東海農政局選定

～ 都市と田舎、生産者と消費者を繋ぐ架け橋に！ ～

◆子ども(教育・体験) ◆地産地消 ◆女性の活躍



ふるさと味工房アグリ 外観



出荷農家の顔写真を
掲示して農産物の販売



地域の伝統産業 しめ縄づくり体験

活動のきっかけ

昭和55年に養豚農家6戸が美味しい豚肉を作ろうとグループを結成後、地場農畜産物の供給などを通して都市と農村の交流を図るアスピア玉城の事業への参加を契機に、平成9年に町内の水稻農家1戸を加え有限会社玉城アクトファームを設立。施設内の「食の施設」の運営を町から受託し農畜産物の直売や加工、レストラン事業、農業体験等のイベント開催に取り組む。

活動の概要

- ◇農畜産物直売施設では会員農家104名の農畜産物を販売、食肉加工施設では看板商品「玉城豚」の精肉やハム等を販売、レストランでは玉城豚や地元産野菜を使用したメニューを提供、手作りパン工房では地元産小麦や国産米粉を使ったパンの製造など、地産地消に取り組む。
- ◇女性従業員が約7割で、7事業部門中3部門で主任責任者として企画・提案等で経営に参画。
- ◇手作りウィンナー作りとパン作りの加工体験教室で地元小・中学校の食農教育に協力。
- ◇交流の取組では、里山の農業体験9、加工体験3、季節の体験20メニューを実施。

活動の成果

- ◇農産物直売所では生産者の写真を掲載し農産物に生産者名の記入、食肉加工施設等は製造工程をガラス張りにして見せることで「食材・食品への安心感」を高め、来客は年間24万人以上で地域の活性化、農業者の所得向上に貢献。
- ◇農家の女性起業活動を支援し、6次産業化を实践する会員7農家全てが女性。
- ◇体験イベントに約1,700人が参加。特産のしめ縄づくり体験で地域文化の保存・伝承に貢献。

問合せ先

〒519-0438 三重県度会郡玉城町原4254-1

TEL:0596-58-8686 FAX:0596-58-8687

⑰大紀町地域活性化協議会

東海農政局選定

～ 熊野古道伊勢路・農林漁業体験民宿で感動体験 ～

◆農泊 ◆インバウンド ◆子ども(教育・体験)



大紀町のスギ並木の下で行う山ヨガ



錦の魚を使った干物づくり体験



外国人に人気の着物着付けと鎧兜体験

活動のきっかけ

過疎化・少子高齢化、後継者不足により商工会員事業者が年々減少し、地域経済が消滅する危機感を覚えた大紀町商工会長が、農林漁業体験民宿を中心とした体験型観光事業の促進を目的に掲げ当協議会を設立。

活動の概要

- ◇平成26年度から子どもを対象に、農林漁業関連団体、農林漁業者、地域団体と連携して50種類以上の農林漁業、自然、伝統文化等の体験プログラムを実施。
- ◇農林漁業体験民宿や体験施設等をネットワーク化し、顧客のニーズに応じて体験や宿をコーディネートするワンストップ窓口を設置。
- ◇「外国人に優しい町」を目指して、多言語に対応した体制を整備、インバウンドの受け入れを強化。
- ◇平成27年度から女性を対象に、自然の中で行う「海ヨガ」「山ヨガ」「SUPヨガ」など「美・健康・癒し」の体験プログラム約10種類による美容ツーリズムを実施。

活動の成果

- ◇3年間で約250人の子ども達を受入れ。体験民宿の取組が魅力的で町の知名度が上昇。
- ◇体験民宿軒数増加で、50名以上の団体の受け入れが可能となり、旅行会社との商談会に参加。
- ◇平成28年度から台湾からの教育旅行に取り組み、29年度は3回130名が来町。インバウンドを中心に年々需要が拡大し、29年度中に10軒の体験民宿が新規開業予定。
- ◇29年度はバス旅行会社の女子旅にも起用されるなど、フルオーダーメイドの旅が人気。

問合せ先

〒519-2802 三重県度会郡大紀町崎2154-1
TEL:0598-74-2277 FAX:0598-74-2278

⑱農事組合法人土実樹

第4回選定

～みかんの里・五ヶ所で地域とともに歩む～

◆雇用 ◆6次産業化 ◆その他(地域農業の振興、担い手育成)



農事組合法人土実樹の直売所



パッションフルーツの栽培



農産物加工品(ジュース類)

活動のきっかけ

地区農地の生産基盤整備、温室や集出荷施設の整備を契機に、農地の買入・借地による柑橘生産経営の規模拡大及び後継者の育成を目指して、平成12年に農家6人で農事組合法人を設立。

活動の概要

- ◇消費者ニーズに合わせて多様な柑橘類を栽培し直営店で販売。ジュース、アイスクリームなどの加工にも取り組み、スーパーマーケット、ホテル、列車の車内販売など販路を拡大。
- ◇中山間地域等直接支払制度の共同活動のリーダーとして地区内の人のつながりを醸成。
- ◇販路開拓を目指し、異業種7事業者で連携した商品開発や、イベントでの交流に取り組む。
- ◇研修生を受入れ、技術習得後に農地の確保も含めた独立を支援し、担い手育成に取り組む。

活動の成果

- ◇柑橘に比べ軽量で、小面積、低資金で栽培を開始でき、女性や高齢者でも重労働とならないパッションフルーツの栽培、加工の取り組みを開始。
- ◇環境に配慮した栽培の取り組みで、「みえの安心安全表示制度」登録生産者に認定。
- ◇6次産業化等の推進で、所得の向上、農地保全、雇用、新たな担い手の確保に貢献。
- ◇集落の共同活動で培われた信頼関係で、離農者の園地を円滑に引き受け地区の農地を保全。
- ◇異業種連携で開発した「でこたんようかん」は人気商品で年間15万個の売り上げ。

問合せ先

〒516-0101 三重県度会郡南伊勢町五ヶ所浦3958

TEL:0599-66-1201 FAX:0599-66-1346

⑱株式会社デアルケ

～ 過疎地域の活性化と1次産業の振興 ～

◆雇用 ◆6次産業化 ◆定住・移住



キッズニア 小学生の農家体験



極上200%トマトジュース



みえの安心食材認定 自慢のトマト

活動のきっかけ

リーマンショック後、1次産業が見直されていたが、農業者の高齢化、地域の過疎化など、多くの問題も抱えていた。そういった状況を危惧し、自分にも何かできることはないかと思い、平成21年に当地域に移住し農業を企業化。

活動の概要

- ◇平成21年からトマトの生産を中心に農業を企業展開。
- ◇農作業従事者の確保に向けて移住者や地元の方の雇用に向けた研修、また支援学校の障害者や精神疾患者の研修受け入れを実施。
- ◇地域の農業者と生産者グループ「紀北農業者の会」と直売所「さくらファーム」を立ち上げ。
- ◇農林漁業者のグループである「海・山こだわり市」の実行委員や三重県下の若者の農業者団体「次世代ファーマーズミエル」の発起人として参画。

活動の成果

- ◇デアルケが当地域に移住し、農業で生計を立てることで、移住や就農を模索している者への促進効果で、新たに移住し農業を始める者も出ており、地域の活性化や一次産業の振興に寄与。
- ◇直売所やこだわり市があることで、作ったものを販売するという高齢者の生きがいがづくりに寄与。
- ◇伊勢志摩サミット2016では当社の加工商品「極上200%トマトジュース」が採用。これをきっかけにメディアに多数取り上げられ当地域を全国に発信。

問合せ先

〒518-3118 三重県北牟婁郡紀北町三浦1574

TEL:0597-31-0058 FAX:0597-31-0235

②⑩三重 紀北町 海・山こだわり市

～ 魅力・ときめき発信！ 地域みんなを元気に！ ～

◆「食」の提供・活用 ◆6次産業化 ◆地産地消



実行委員メンバー集合写真



海・山こだわり市 会場全体写真



海・山こだわり市 ブース写真

活動のきっかけ

農業・漁業を営む一次生産者として、いいものを作って売るためにはより多くの方に対して商品の価値や自分たちの「こだわり」を適確に情報発信しなければいけないが、まずは身近な地域のヒトたちに自分たちのことや生産品を知ってもらいたいという思いから、平成25年に活動を開始。

活動の概要

◇実行委員会メンバーである若手生産者のこだわり生産品と地域内の旬を組み合わせた「海・山こだわり市」を年3回程度開催。

◇近隣の尾鷲市や熊野市の若手生産者のメンバーで気軽に食べ歩きのできる「棒（串焼きなど）」対決のイベント開催。

活動の成果

◇若手生産者やそれぞれの生産品の認知度がアップし、三重県知事との対談も実現。

◇実行委員の商品を使って、地域コラボ商品を開発、販売が開始。

◇町外からの参加店舗も増えたことで、来場者数が3,000人に増加。

◇実行委員メンバーの商品「200%トマトジュース」が伊勢志摩サミット2016の会食ドリンクとして採用。

問合せ先

〒519-3406 三重県北牟婁郡紀北町相賀2094-5

TEL:090-4861-6737 FAX:0597-31-4126

②尾呂志地区活性化プラン推進委員会

～ 次世代に繋げ、いきいき暮らせる 尾呂志地域！ ～

◆6次産業化 ◆定住・移住 ◆その他(農業振興)



おひまち会による郷土料理「三杯」の勉強会



純米大吟醸 風



ホームページ「恋しよおろし」開設

活動のきっかけ

本地域には、過疎化・高齢化などの課題解決に向けた住民による様々な活動が従前より展開されていたが、「地域活性化プラン」の策定を契機に、議論を重ね活動を一本化する形で平成23年度に「尾呂志地区活性化プラン」を策定し、翌年度推進母体として推進委員会を設立。

活動の概要

- ◇尾呂志「夢」アグリと地元企業と協働で県産酒米を栽培し日本酒を醸す取組を実施。
- ◇さぎりの里直売所では、平成22年度から海岸部の産直市場と連携し、月1回交互に出展し合う新しいスタイルの交流を開始、海の商品が並ぶことで直売所の魅力が向上。
- ◇女性グループ「おひまち会」は、郷土料理「三杯」「落花生の煮豆」等の勉強会・講習会、商品化の取組など、郷土料理の保存、普及の活動を実施。
- ◇ライブカメラによる24時間中継、フェイスブックページ「恋しよおろし」、尾呂志の歳時記や郷土料理等を紹介するホームページ等で地域情報を積極的に発信。

活動の成果

- ◇尾呂志「夢」アグリ米の生産量・販売量も着実に増加し、耕作放棄地の抑制にも寄与。
- ◇地元企業との連携により完成した日本酒が、地域の新しい特産品として人気。
- ◇さぎりの里の直売所は好調な売上を継続、販売先があることで地域の小規模な農地が維持されるとともに、出荷する組合員の生産・販売意欲の増進、高齢者の生きがいづくりにも貢献。
- ◇地域を一本化した活動で地域を前面に出した発信が地域内の一体感・連帯感の醸成に寄与。

問合せ先

〒519-5322 三重県南牟婁郡御浜町上野918-8

TEL:05979-4-1078 FAX :05979-4-1078

②農事組合法人飛雪の滝百姓塾

～ 災害と獣害を逆手に地域活性化 ～

◆自然・景観 ◆企業 ◆鳥獣被害防止



企業とのCSR活動による田植え体験



社員の家族も一緒に稲刈り



侵入防止柵周辺のつる除去

活動のきっかけ

紀宝町浅里地区は、高齢化と獣害により地域の活力低下が課題となっていた。平成23年の紀伊半島大水害の災害ボランティアで縁ができた企業と、平成27年に「農村活性化の取り組みに関する協定書」を締結、地域活性化と里山保全に取り組む。

活動の概要

- ◇不要になった魚網を利用して、シカの防護柵を共同設置、獣害対策研修会開催、集落全戸アンケート実施・結果報告、集落被害マップ作成など集落全体での獣害対策を実施。
- ◇新入社員研修を兼ねた田植え体験と放置竹林の伐採、社員の家族も交えた稲刈り体験と獣害防止柵周辺の草刈り作業など企業と連携したCSR活動を実施。
- ◇集落営農組織を中心に水稻新品種の栽培を開始し、「飛雪米」と銘をつけて販売を開始。飛雪米で作った「なれずし」を販売し紀州の食文化を発信。

活動の成果

- ◇集落全体で獣害対策に取り組む活動の高まりと、企業の協力で獣害は大きく軽減。
- ◇企業との連携では、社員や家族に農業の実際を知ってもらう機会となり、社員食堂で「皆で植え、収穫したお米」を味わってもらうことで、農産物の販路拡大にもつながっている。
- ◇CSR活動で若い社員が参加することで、高齢化の進む地域にとって「若い人が手伝ってくれると元気が出る」と良い刺激となり、栽培意欲が芽生え不作付地の解消にもつながっている。
- ◇facebookによる発信、移住促進等の取組により、移住者が5人増加。

問合せ先

〒519-5718 三重県南牟婁郡紀宝町浅里781番地
TEL:0735-22-7988 FAX:0735-22-7988



「デイスカバー^{むら}農山漁村の宝」(第4回選定)東海農政局管内 応募団体事例集
(平成30年3月)

編集・発行 東海農政局 農村振興部 農村計画課
〒460-8516 名古屋市中区三の丸1-2-2
TEL:052-223-4629 (直通) FAX:052-220-1681

「デイスカバー農山漁村の宝」ホームページ(東海農政局)
URL:<http://www.maff.go.jp/tokai/noson/keikaku/discover/index.html>